

第八八

間接國稅犯則

年次	政府ニ申請 石油ヲ製造 シタル者	外洋ニ於テ 石油ヲ製造 シタル者	石油ヲ輸入 シタル者	石油ヲ運搬 シタル者	石油ヲ貯蓄 シタル者	石油ヲ消費 シタル者
何年						

行為別人員表 其十二 石油消費税法

石油ノ製造者又ハ 販賣者石油ノ製造 出入ニ關スル帳簿 ヲ製シテ又ハ其 ノ記載ヲ詐リ若ハ 隠シタル者	賦稅官更ノ尋問ニ 對シ虚偽ノ答辯ヲ 爲シ又ハ其ノ職務 執行ヲ拒ミ之ヲ忌 避シ若ハ之ニ支障 ヲ加ヘタル者	本法ヲ施行セザル 地ニ於テ製造又ハ 輸入シタル石油ヲ 本法施行地ニ移入 シタル者	合計	備考

○大藏省訓令第三十五號

稅務監督局

明治三十六年九月大藏省訓令第三十九號稅務統計臺帳簿本提出期限表中左ノ通改正追加ス
明治四十一年六月二十二日 大藏大臣 松田正久

番 號	表 名	提 出 期 限
第一	會社數表	翌年四月末日
第二	第一種第三種所得稅納額別人員表	第三種其年十月十五日 第一種翌年五月末日
第四	酒精及酒精含有飲料稅表	翌年度五月十五日
第五	砂糖消費稅徵收區分表	翌年度五月十五日
第六	輸入原料砂糖稅表	翌年度五月十五日
第六〇	煉乳原料砂糖稅表	翌年度五月十五日
第七	織物消費稅徵收區分表	翌年度五月十五日
第七九	石油製造仲買販賣戶數表	其年一月末日
第七九	石油消費稅表	翌年度五月十五日
第七九	石油消費稅徵收區分表	翌年度五月十五日
第七九	石油消費稅免除表	翌年度六月末日
第七九	石油消費稅擔保種別表	
第七五	表名ヲ「織物製造仲買販賣戶數表」ト改ム	

稅關

明治三十六年六月大藏省訓令第三十一號稅務統計臺帳簿式ニ準シ左ノ諸表ヲ調製シ下ニ定ムル期限ニ從ヒ主稅局ニ送付スヘシ
明治三十六年六月二十二日 大藏大臣 松田正久

一	砂糖消費稅徵收區分表	稅務統計臺帳簿式	翌年度五月十五日
一	砂糖消費稅擔保種別表	同	六月末日
一	織物消費稅徵收區分表	同	五月十五日
一	織物消費稅擔保種別表	同	六月末日
一	石油消費稅徵收區分表	同	五月十五日
一	石油消費稅擔保種別表	同	六月末日
一	租稅(砂糖消費稅織物消費稅石油消費稅)	賦課及調定額表	同

○陸軍省訓令第二十號

陸軍一般

明治四十一年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス
明治四十一年六月八日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

歲出臨時部

△印増設

款	項	目	節
戰後整理費			
倉庫建築費			

○陸軍省訓令第二十一號

明治四十一年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス
明治四十一年六月十七日

歲出經常部

陸軍大臣 子爵寺內正毅

△印増設

陸軍一般

災害費	未位ニ	物件費	未位ニ	雜費	未位ニ	旅費	停給諸給	未位ニ
	△近衛、第一師團建造費		△近衛師團建造物復舊					
			△第一師團建造物復舊					

軍事費	修繕費	未位ニ	要器備附船舶修繕	未位ニ	名古屋陸軍北練兵場修繕
-----	-----	-----	----------	-----	-------------

歲出臨時部

○陸軍省訓令第二十二號

明治四十一年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス
明治四十一年六月二十三日

歲出經常部

陸軍大臣 子爵寺內正毅

△印増設

陸軍一般

營繕費	新管費	未位ニ	各兵隊諸學校厩舎其他新増築	步兵第二十一聯隊水道新設	滿韓樺太駐屯部隊費	滿韓樺太駐屯部隊費	物件費ノ上位ニ	人件費	物件費	備給	兵器費	運搬費
-----	-----	-----	---------------	--------------	-----------	-----------	---------	-----	-----	----	-----	-----

款	項	目	節
軍 事 費	修 繕 費	末位ニ 第二海堡防波堤修 繕	
		陸軍會計監督部附 屬家修繕	

○農商務省訓令第十六號

明治三十三年農商務省訓令第十一號大林區署會計事務章程中左ノ通改正ス

大林區署

明治四十一年六月三日

農商務大臣 松岡康毅

第八十六條ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ製材場ニ分任物品會計官吏ヲ置キタルトキハ大林區署長部下ノ官吏ニ物品ノ出納命令ヲ委任スルコトヲ得

第八十九條第二項中製圖用ノ「ペン先」ノ下ニ「ペン軸」ヲ加ヘ複寫版用ノ「インキ」ノ上ニ「筆」ヲ加ヘ「簿記用」ヲ「簿記製表用」ニ改メ其ノ「ペン先」ノ下ニ「ペン軸」ヲ加ヘ應接所用ノ次ニ筆、墨以上辭令書用、鉛筆（讀事筆記用）ヲ加フ

第一百五條ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ物品取扱主任ニ交付シタル物品ニ對シテハ其ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外責任ヲ免ルコトヲ得

第一百六條中但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ物品取扱主任ハ各使用者ニ交付シタル物品ニ對シテハ前條但書ニ同シ

第一百七條中但書ヲ削ル

第一百八條 物品出納命令官ハ物品會計規則第十條ノ二ニ依リ四箇年度ヲ一期トシ每期ノ末年度ニ於テ検査員ヲシテ物品會計官吏ノ保管ニ屬スル物品ノ全部ヲ帳簿ニ照合精細ニ検査セシメ其ノ調書ヲ調製セシムヘシ

物品出納命令官必要ト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲシテ保管物品ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第一百九條中「物品出納命令官」ノ命シタル検査員立會ノ上帳簿ニ照査シ「ヲ削ル

林區署

○農商務省訓令第十七號

農商務大臣 松岡康毅

明治四十一年六月十六日

第二條第二十號中「位置變更」ノ下ニ「竝之ニ基ク保護區ノ名稱變更」ヲ加フ

第五條第十四號中「辨償金」ノ下ニ「又ハ金額五十圓ヲ超エサル辨償金」ヲ加フ

〔參照〕

農商務省訓令第一號（明治四十年一月二十九日）抄録

第二條 大林區署長ハ左ニ掲クル事項ヲ專決處分スルコトヲ得但シ特ニ重要ノ關係アルモノ又ハ事ノ異例ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

二十 同一市町村内ニ於ケル小林區署及保護區官舎ノ位置變更ノコト

第五條 小林區署長ハ左ニ掲クル事項ヲ專決處分スルコトヲ得但シ特ニ重要ノ關係アルモノ又ハ事ノ異例ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

十四 金額又ハ金額ヲ定ムヘキ進率ノ定マリタル違約金、辨償金徴收ノコト

○農商務省訓令第十八號

明治四十一年三月農商務省訓令第九號科目表中森林資金歲入林野拂下代ノ款同名ノ項ノ末位ニ延納利子ノ目ヲ設置ス
山林局 林區署
農商務大臣 松岡康毅

明治四十一年六月二十三日

○統監府訓令第九號(官報六月十七日)

明治三十九年七月統監府訓令第十六號ニ依リ準用ノ帝國鐵道官署會計事務取扱規程第百十九條ノ返納告知書ハ爾今發行ヲ要セス
統監府鐵道管理局
統監 公爵伊藤博文

明治四十一年六月十三日

○統監府訓令第十號(官報六月三十日)

在外指定學校職員ノ採用解職增俸減俸其ノ他進退ハ其ノ都度之ヲ統監ニ報告スヘシ其ノ新ニ採用シタル者ハ履歷書ヲ添附スヘシ
理事廳
統監 公爵伊藤博文
明治四十一年六月二十四日

○大藏省訓令第三十七號

警視廳 北海道廳 府 縣 大臣官房會計課
印刷局 造幣局 專賣局 稅關
稅務監督局 稅務署 釀造試驗所 大藏省臨時建築部
本年三月大藏省訓令第十二號明治四十一年度大藏省所管歲入科目表歲入經常部第一款租稅第十七項舊稅追納中ニ第三目鹽稅ノ目ヲ追加ス
大藏大臣 松田正久
明治四十一年七月十一日

明治四十一年七月十一日

○大藏省訓令第三十八號

明治三十八年五月大藏省訓令第四十三號ハ鹽務局事務取扱手續同年十一月同第七十一號ハ收納鹽等級記號附著方同大藏省訓令第十九號ハ明治四十一年七月三十一日限り之ヲ廢止ス
大藏大臣 侯爵桂太郎
明治四十一年七月十八日

明治四十一年七月十八日

〔參照〕

明治三十八年五月大藏省訓令第四十三號ハ鹽務局事務取扱手續同年十一月同第七十一號ハ收納鹽等級記號附著方同三十九年五月同第十九號ハ鹽代金延納擔保殘額證明取扱手續ナリ

○大藏省訓令第三十九號

稅務監督局 稅務署
明治三十二年六月大藏省訓令第四十五號別冊樣式中左ノ通改正ス但シ第一號ノ一、第一號ノ二及第四號ハ明治四十二年一月一日ヨリ第一號ノ三ハ明治四十二年度ヨリ第五號及第六號ノ一ハ漸次之ヲ調理スヘシ
稅務監督局 稅務署
大藏大臣 侯爵桂太郎
明治四十一年七月二十日

明治四十一年七月二十日

凡例
 三 稅務署長ニ於テ地方特殊ノ事情ニ依リ本様式ノ欄劃ヲ加除スルヲ便宜ト認ムルモノハ事項ノ明瞭ヲ失ハサル限リ稅務監督局長ノ認可ヲ受ケ更正調製スルヲ妨ケス
 第一號ノ一 有租地集計簿(四十一年分ノ例)(表中△印ヲ付セルハ朱書以下之ニ做フ)

田(何々)之部

何市町村

摘要	段別	地價	筆數	事	故
四十一年一月一日現在	一六六〇〇	六、六五〇〇〇	五〇〇		
有租地成	六〇〇〇	二、五五〇〇〇	三〇	學校敷地ノ使用廢止二月地價設定	
免租地成	△一〇〇〇〇	△四、五〇〇〇〇	△二〇〇	四十一年十二月道路敷成ノ通知ヲ受ケタル分二月整理	
四十一年三月三十一日現在	二二六二〇〇	八、七五〇〇〇	五一〇		
地目組變替換	一五〇〇〇	三、二五〇〇〇	二	四月期ヨリ	
地租輕減地成	△	△六〇〇〇〇	△	砂防法ニ依リ制限セララル分六月許可	
開墾地價修正	一〇〇〇	四〇〇〇〇	一	二十七年四月原野ヨリ無届開墾六月發見整理	
地目組變替換	一〇〇〇	二五〇〇〇	一	三十八年十月知ヨリ無届變換七月發見整理	
荒地	△	△五〇〇〇〇	△	△八月申告ヲ受ケ許可ス	
地租輕減地制限解除		三〇〇〇〇	一	八月ヨリ	
荒地免租年期明	一五〇〇〇〇	四、五〇〇〇〇	一〇〇	復舊八月整理	
四十一年十二月六日現在	三八二二〇〇	一三、四六〇〇〇	六三三	地價三千五百圓地租三十四圓三十七錢五厘被書調査中ニ屬シ徵收檢査	

分筆	地價	筆數	事
四十一年一月一日現在	三八二二〇〇	一三、四六〇〇〇	六三七
免租地成	△二〇〇〇	△五〇〇〇〇	△五
四十一年一月三十一日現在	三七九二〇〇	一三、四一〇〇〇	六三二
地目變換地價修正差額	一〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一
荒地免租年期明	一〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	八
四十一年二月十八日現在	三八九三〇〇	一三、八一〇〇〇	六四〇
四十一年三月三十一日現在	三八九三〇〇	一三、八一〇〇〇	六四〇
官地成	△一〇〇〇	△三〇〇〇〇	△一
四十一年四月二十日現在	三八八三〇〇	一三、七八〇〇〇	六三九
免租地成	△三〇〇〇〇	△一、二〇〇〇〇	△五九
四十一年五月一日現在	三五八三〇〇	一二、五八〇〇〇	五八〇

備考

- 一 本簿ハ前年分有租地集計簿ノ當該年一月一日現在額ヲ移記シ異動ノ事實ニ依リ相當加除スルモノトス
- 二 翌年一月一日以降本年分地租第六納期開始迄ニ本年以前ノ異動及本年分地租ニ關係スル異動ヲ處理シタルキハ本年分集計簿ニ於テモ仍増減ノ整理ヲ爲スモノトス
- 三 本年一月一日以降三月三十一日迄ニ處理シタル前年以前ノ異動ヲ加除シタル更訂額ヲ以テ本年一月一日現在額ト爲シ本年一月一日以降三月三十一日迄ニ處理シタル前年以前ノ異動ヲ掲載セサルヲ便宜トスルトキハ其ノ調理方法ニ依ルモ妨ナシ
- 四 法令ノ規定ニ依リ地租ノ徵收ヲ猶豫シ若ハ延納ヲ許可シ又ハ水害ニ因リ收獲皆無トナリタル爲地租ヲ免除シタルトキハ地價及地租ノ員額及其ノ事由ヲ當該納期分現在ノ事故欄ニ掲クルモノトス

第四號

地租輕減地集計簿

田(何々)之部

何市町村

摘 要	段 別	全 地 價	輕 減 地 租	地 租 二 對 比	筆 數	事 故
四月一日現在	二四〇〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	三三〇〇〇	四〇〇〇〇	五	
六月新規	五〇〇〇	二〇〇〇,〇〇〇	三三〇〇〇	六〇〇〇〇	二	掘鑿禁止
八月新制	三〇〇〇〇	一五〇〇〇,〇〇〇	一六五〇〇	三〇〇〇〇	一	
四月一日現在	二二〇〇〇〇	一〇,五〇〇,〇〇〇	三三六五〇	四三〇〇〇	六	
七月新規	一〇〇〇〇〇	五〇〇〇,〇〇〇	五五〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一	形狀ノ變更ハ許可ヲ要ス
八月禁止	五〇〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二二〇〇〇	四〇〇〇〇	一	
現在	二七〇〇〇〇	一三,五〇〇,〇〇〇	二六九五〇	四九〇〇〇〇	六	

備考

一 本様式ニ準シ未尾ニ郡計及所轄計ヲ附スルモノトス但シ一郡又ハ一市ノミヲ所管スル稅務署ニ於テハ郡計又ハ所轄計ヲ掲クルヲ要セス

第五號

荒地臺帳

明治四十三年期明田(何々)之部

何市町村

摘 要	大 字	字 地 番	段 別	地 價	筆 數	事 故
三十九年九月新規	神代	大和 二,三六二	可	一,一〇〇	六〇〇〇	△四十一年三月官抽成
三十九年九月再荒	同	同 二,一〇〇	可	一,〇〇〇	四五	復舊
四十年十月新規	九重	二見 二五〇	可	〇,五〇〇	三〇〇〇	知へ起返
四十年十二月繼年	向島	桒川 一六二	可	一〇〇〇〇	六五〇〇〇〇	△四十一年九月再荒
現在	神山	馬場 二	可	〇,三二〇	一五	△四十二年八月再荒
同	同	同 一五	可	一,六二〇	三五	低價年期許可
四十年七月繼年	神津	豊島 三六二	可	〇,三〇〇	一八	△四十三年七月繼年期許
期許可	同	同 一五	可	一,一〇〇	七	
△四十一年年中減			△	一,一〇〇	七	
現在				三,八〇〇	一四三	
△四十二年年中減			△	〇,三二〇	一五	
現在				三,四二〇	一五	
△四十三年一月一日			△	三,四二〇	一五	
現在				三,四二〇	一五	
△四十三年年中減			△	〇,三〇〇	一八	

現在	△	三二〇〇	一〇〇〇〇	三
△四十四年中減	△	三二〇〇	△一〇〇〇〇	△三

備考

- 一 大字毎ニ地番ヲ付シタル市町村ニ在リテハ字ノ記載ヲ要セス
- 二 異動ナキトキハ重テテ現在額ヲ掲クルヲ要セス
- 三 再荒、年期延長等減トナルヘキモノノ表示ハ複線ヲ以テ朱抹スルモノトス減トナルヘキモノノ記入事項ハ朱記スルモノトス
- 四 年期明ノ翌年ニ於テ處分ヲ了スルコト能ハサルモノアルトキハ事故欄ニ事由ヲ詳記スルモノトス
- 五 本様式ニ準シ未尾ニ段別地價、筆數ニ付郡計及所轄計ヲ附スルモノトス
- 六 但シ一郡又ハ一市ノミヲ所管スル稅務署ニ於テハ郡計又ハ所轄計ヲ附スルヲ要セス
- 七 年期明ノ年毎ニ各地ノ地番、段別及地價ヲ見ルコトヲ得ヘキ書類ノ編綴シタルモノアルトキハ本簿ハ省略スルヲ妨ナシ
- 八 低價地、造林地開墾地、下期地開拓地、新開地、地價據置地等年期ヲ定メ地租又ハ地價ヲ減免スルモノ及無年期開墾地、北海道ニ於ケル特別免租地ノ如ク一定ノ期間地價又ハ地租ヲ減免スルモノ及東京市區改正特別免租地ノ如ク不定期間地租ヲ免除スルモノノ發帳ハ本様式ニ準シ調製スルモノトス
- 九 低價地ノ地價ハ低減セラレタルモノヲ掲記シ左傍ニ原價地價ヲ掲クルモノトス
- 十 地價據置地ハ地目變換地價據置地ト耕地區劃形狀變更地價據置地トニ口坐ヲ設ケテ整理スルモノトス
- 十一 本簿ノ整理ニ付テハ開墾下期地、開拓下期地及地價據置年期地ノ年期明トハ年期滿了ノ年ト解シ取扱フモノトス
- 十二 無屆開墾地ニシテ著手後九年ヲ經過セルモノヲ發見シタルトキト雖其ノ年ニ於テ年期滿了ノ土地ノ部ニ掲記スルモノトス

第六號ノ一 地目變換地臺帳

替地ノ年	大字	字地番	地目	原別地價	修正地價	筆數	事	故
三十八年	神代	大和	二五〇	畑	11000	11000	1	△四十年六月畑ニ變換ニ付變換消滅
同	九重	二見	二	宅地	1000	4000	1	期間滿了
三十九年	向島	梅川	100	畑	11000	20000	1	△四十年八月荒地成ニ付變換取消
同	神山	馬場	二	同	2000	2000	1	期限滿了
四十年	神津	豐島	二	畑	10000	10000	1	三十八年四月無屆變換三十九年十月發見四十二年六月郡村宅地ニ變換ニ付變換廢止
△四十年中減					11000	△11000	△1	
四十年一月一日現在					1000	1000	1	
四十年中	九重	二見	三〇	畑	1000	3000	1	三十八年十月無屆變換四十年七月發見
△四十年中減					1000	△1000	△1	
四十年一月一日現在					5000	1000	1	
△四十年中減					5000	△4000	△1	
四十年一月一日現在					1000	1000	1	
△四十年中減					1000	△1000	△1	
四十年一月一日現在					1000	1000	1	
△四十年中減					1000	△1000	△1	
四十年一月一日現在					1000	1000	1	

替地ノ年	大字	字地番	地目	原別地價	修正地價	筆數	事	故
三十八年	神代	大和	二五〇	畑	11000	11000	1	△四十年六月畑ニ變換ニ付變換消滅
同	九重	二見	二	宅地	1000	4000	1	期間滿了
三十九年	向島	梅川	100	畑	11000	20000	1	△四十年八月荒地成ニ付變換取消
同	神山	馬場	二	同	2000	2000	1	期限滿了
四十年	神津	豐島	二	畑	10000	10000	1	三十八年四月無屆變換三十九年十月發見四十二年六月郡村宅地ニ變換ニ付變換廢止
△四十年中減					11000	△11000	△1	
四十年一月一日現在					1000	1000	1	
四十年中	九重	二見	三〇	畑	1000	3000	1	三十八年十月無屆變換四十年七月發見
△四十年中減					1000	△1000	△1	
四十年一月一日現在					5000	1000	1	
△四十年中減					5000	△4000	△1	
四十年一月一日現在					1000	1000	1	
△四十年中減					1000	△1000	△1	
四十年一月一日現在					1000	1000	1	
△四十年中減					1000	△1000	△1	
四十年一月一日現在					1000	1000	1	

- 一 大字毎ニ地番ヲ付シタル市町村ニ在リテハ字ノ記載ヲ要セス
- 二 現在ノ整理ハ先ツ原價ニ付テハ爲シ修正地價ニ付テハ地價修正ヲ了シタルトキ爲スモノトス
- 三 本様式ニ準シ未尾ニ段別地價、筆數ニ付郡計及所轄計ヲ附スルモノトス但シ一郡又ハ一市ノミヲ所管スル稅務署ニ於テハ郡計又ハ所轄計ヲ附スルヲ要セス

清國事件費

清國事件費

未位ニ

一時賜金

○陸軍省訓令第二十四號

陸軍一般

明治四十一年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス

陸軍大臣 子爵寺內正毅

明治四十一年七月二十四日

△印増設

歲入臨時部

款	項	目	節
雜收入	臨時軍事費所屬收入ノ上位ニ		
△利子收入			
△利子收入			

歲出經常部

款	項	目	節
陸軍本省	雜給及雜費		
	雜費		
	未位ニ		
	死傷手當		

軍事費	修繕費	未位ニ	未位ニ
		步兵第七聯隊第三大隊兵舎窓増設	
		近衛騎兵聯隊糶秣庫及下水修繕	
		札幌衛戍地各部隊及官舎下水修繕	
		函館衛戍地各部隊及官舎下水修繕	
		野田第二十二聯隊官舎修繕	
		步兵第四十聯隊木柵補修	

○農商務省訓令第十九號

山林局 林區署

明治四十一年三月農商務省訓令第九號科目表中歲出臨時部尾尾國有林復舊費ノ款同名ノ項ノ未位ニ死傷手當ノ目ヲ設置ス

農商務大臣 松岡康毅

○農商務省訓令第二十號

林區署

明治四十一年七月十五日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第一條 國有林事業豫定案ノ實行ニ關スル印刷物ノ調製職工人夫ノ雇傭工事物件ノ買入借入及運搬作業若ハ工事ニ從事スル職工人夫ニ對スル食料品又ハ慰勞酒饌等ノ給與ハ大林區署長限

リ之ヲ決定スルコトヲ得但シ一廉金額(物件ノ買入運搬等ニシテ單位ニ依ル金額ヲ定ムルモ總數見積リ總金額ヲ概定シ一廉ノ金)二千五百圓以上ニシテ明治二十三年勅令第九十三號以外ノ法額ニ代フヘシ以下凡テ之ニ同シ)一廉ノ金)二千五百圓以上ニシテ明治二十三年勅令第九十三號以外ノ法額ニ基ク隨意契約ニ依ルモノ又ハ特ニ重要ノ關係アリ若ハ事ノ異例ニ屬スルモノニ付テハ豫メ之ニ關スル事項ヲ具シ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 大林區署長前條ニ依リ決定ヲ爲シタルモノノ内左記各號ノ一ニ該當スルモノハ其ノ都度遲滞ナク之ニ關スル事項ヲ具シ之ヲ本大臣ニ報告スヘシ但シ前條但書ニ依リ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

- 一 受負ニ依ル一廉金額二千圓以上ノ職工人夫ノ雇備
- 二 一廉金額五千圓以上ノ工事及二千圓以上ノ種苗其ノ他物件ノ買入
- 三 一廉金額五百圓以上ノ物件ノ運搬又ハ印刷物ノ調製
- 四 作業若ハ工事ニ從事スル職工人夫ニ對スル慰勞酒饌等ノ給與但シ地方ノ慣例ニ從フモノヲ除ク

第三條 小林區署長ハ豫定案ノ實行ニ關シ左ニ掲クル事項ハ之ヲ專決スルコトヲ得但シ特ニ重要ノ關係アルモノ又ハ事ノ異例ニ屬スルモノニ付テハ豫メ之ニ關スル事項ヲ具シ大林區署長ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 明治二十三年勅令第九十三號ニ依ル隨意契約
- 二 定夫ノ雇備或職工人夫ノ直接雇備
- 三 受負ニ依ル一廉金額五百圓ヲ超エサル職工人夫ノ雇備
- 四 一廉金額千圓ヲ超エサル種苗、五百圓ヲ超エサル事業材料及百圓ヲ超エサル物品ノ買入
- 五 一廉金額百圓ヲ超エサル工事

六 一時ノ使用ニ屬スル土地、家屋其ノ他物件ノ借入

七 作業若ハ工事ニ從事スル職工人夫ニ一回金額二十圓ヲ超エサル食料品及慰勞酒饌等ノ給與但シ慰勞酒饌等ニ付テハ地方ノ慣例ニ從フモノニ限ル

八 一廉金額百圓ヲ超エサル物件運搬及十圓ヲ超エサル印刷物ノ調製

第四條 大林區署長ハ前條ニ依リ小林區署長ニ於テ專決シタルモノニ就キ事項ヲ定メ之ヲ報告セシムヘシ

○農商務省訓令第二十一號

警視廳 北海道廳 府縣(東京府ヲ除ク)

客月下旬以降山口縣下關港及福岡縣門司港ヲ經テ大阪、兵庫、岐阜、長野、岡山、廣島、山口、徳島、香川、和歌山、福岡及大分ノ諸府縣ニ輸入シタル韓國牛續々牛疫ヲ發シテ各地ニ傳播シ往年ノ如キ慘害ヲ醸出スルノ虞アリ依テ此際韓國輸入牛ノ所在ヲ調査シ檢診ヲ行ヒ異狀アルモノハ法規ニ依リ之ヲ處分シ嚴重ニ消毒ヲ行ヒ病勢ノ猖獗ナラサルニ先チ該疫ノ撲滅ヲ期スヘシ

明治四十一年七月十五日

農商務大臣 男爵大浦兼武

○農商務省訓令第二十二號

府縣

明治四十一年三月農商務省訓令第八號科目表中歲出臨時部產業獎勵費ノ款植樹獎勵費ノ項中獎勵費ノ目ノ解疏中補助トシテ交付スルモノノ下ニ及國ノ事業トシテ施行スル事業費共ヲ加ヘ事業費ノ目ヲ削ル

明治四十一年七月二十七日

農商務大臣 男爵大浦兼武

○統監府訓令第十一號(官報七月七日)

理事廳會計事務章程左ノ通定ス但シ書式ハ別ニ之ヲ頒ツ

明治四十一年六月二十八日

統監 公爵伊藤博文

理事廳會計事務章程

目次

- 第一章 總則
- 第二章 豫算
- 第三章 歳入
- 第四章 歳出
- 第五章 工事及物件ノ賣買貸借
 - 第一節 工事
 - 第二節 物件ノ賣買貸借
- 第六章 歳入歳出外現金及保管物
- 第七章 物品
- 第八章 官有財産
- 第九章 恩賞諸祿
- 第十章 諸貸付金

附則

理事廳會計事務章程

第一章 總則

第一條 理事廳經費豫算額ハ毎年度ノ始ニ於テ總務長官之ヲ令達ス

理事官豫算ノ令達ヲ受ケタルトキハ其ノ科目金額ニ對シ其ノ年度經理ノ計劃ヲ立ツヘシ

第二條 理事廳ノ歳入歳收收買物品出納命令官及歳入歳出外現金出納命令官ハ理事官トス

第三條 左ノ官吏ハ屬通譯生又ハ看守長ノ中ヨリ理事官之ヲ命シ其ノ旨申報スヘシ但シ歳入歳

出外現金出納官吏ハ收入官吏ヲシテ兼掌セシムヘシ

一 收入官吏 現金前渡ヲ受クル官吏 歳入歳出外現金出納官吏及物品會計官吏

二 會計規則第九十一條第二項及物品會計規則第十二條ノ検査官吏

三 會計規則第九十二條及物品會計規則第十三條ノ立會官吏

四 會計規則第一百條ノ代理調製官吏

五 明治二十六年^九大藏省令第二十號保管物取扱規程ニ依ル保管物取扱主任官

六 會計規則第六十七條第三項ノ検査官吏

第四條 會計検査院ニ提出スヘキ證明書及歳收報告書ニシテ規定ノ期間内ニ發送スルコト能ハサルモノアルトキハ其ノ事由及提出期日ヲ申報スヘシ

第五條 出納官吏交替シタルトキハ明治二十三年^四大藏省訓令第五十四號ニ依リ事務ノ引繼ヲ爲スヘシ

前項ノ引繼ヲ了シタルトキハ前任後任官吏連署ヲ以テ其ノ旨申報スヘシ

第六條 出納官吏保管ノ金員紛失又ハ亡失シタルトキハ速ニ其ノ原因、前後ノ狀況等事實ノ詳細ヲ具シ理事官ヲ經テ申報スヘシ被詐取ノ場合亦同シ

第二章 豫算

第七條 理事官ハ第一號及第二號書式ニ依リ歳入歳出ノ概算書ヲ調製シ前年度四月十五日迄ニ本府ニ提出スヘシ

歳出ノ費目ハ毎年之ヲ本府ヨリ通達ス

第八條 豫算各目ノ流用又ハ節ノ新設ヲ要スルトキハ第三號又ハ第四號書式ノ稟請書ヲ提出スヘシ

豫算各節ノ流用ヲ要スルトキハ理事官之ヲ決定シ出納ノ完結シタルトキ第五號書式ノ報告書ヲ

提出スヘシ

第九條 豫算ノ各目ニ不足ヲ生スルトキハ第六號書式ノ増額稟請書ヲ提出スヘシ

第十條 理事官ハ第七號書式ニ依リ毎年度末ニ於ケル經費ノ現計書ヲ作り四月五日迄ニ提出スヘシ

第三章 歳入

第十一條 歳入徴收官ハ歳入ヲ調定シ十五日以内ニ於テ適宜納入ノ期日ヲ定メ明治三十三年^四大藏省訓令第二十七號諸收入收納取扱規程ノ様式ニ依リ各納人ニ對シ納入告知書ヲ發シ現金ヲ金庫又ハ收入官吏ニ納付セシムヘシ但シ必要ト認ムル場合ニ於テハ納入告知書ヲ發スルコトナク現金ヲ收入官吏ニ即納セシムルコトヲ得

前項ニ依リ調定シタル金額ハ第八號書式ノ調定原簿及明治二十六年^{十一}大藏省令第三十二號第十一號様式ノ徴收簿ニ之ヲ登記スヘシ

第十二條 歳入徴收官金庫又ハ收入官吏ヨリ收入濟通知書ヲ受ケタルトキハ前條ノ帳簿ニ登記スヘシ

第十三條 收入官吏納入告知書ニ依リ現金ヲ領收シタルトキハ之ニ接續セル領收證書ヲ、納入告知書ニ依ラス現金ヲ領收シタルトキハ明治二十六年^{十一}大藏省令第三十二號第二號様式ノ領收證書ヲ納入ニ交付シ領收ノ旨ヲ速ニ歳入徴收官ニ報告スヘシ

第十四條 收入官吏納金ヲ領收シタルトキハ明治二十六年^{十一}大藏省令第三十二號第十四號様式ノ出納官吏現金出納簿ニ之ヲ登記シ第三號様式ノ現金拂込書ヲ調製シ明治二十二年^十大藏省令第十三號出納官吏現金取扱規則第十五條ノ規定ニ從ヒ之ヲ取扱フヘシ

金庫ノ設置ナキ地方ノ收入官吏納金ヲ領收シタルトキハ出納官吏現金取扱規則第十六條ニ依リ之ヲ取纏メ拂込書ヲ添ヘ京城本金庫ニ拂込ムヘシ

第十五條 納期間内ニ納金ヲ完納セサル者アルトキハ歳入徴收官ハ速ニ之ヲ督促スヘシ

第十六條 歳入徴收官ハ徴收簿ニ依リ明治二十六年^{十一}大藏省令第三十二號第四號様式ノ徴收報告書ヲ調製シ歳入金月計對照表ヲ添ヘ翌月十日迄ニ提出スヘシ

第十七條 歳入徴收官第十一條ノ手續ヲ了シタル後科目ニ誤記アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ徴收簿ニ訂正ノ記入ヲ爲スヘシ若既ニ報告濟ノモノナルトキハ其ノ訂正ヲ爲シタル月ノ報告書ニ之ヲ掲ケ其ノ事由ヲ詳記スヘシ

年度ニ誤記アルコトヲ發見シタルトキノ訂正手續ハ明治二十四年^五大藏省令第十一號ニ依ルヘシ

前二項ノ場合ニ於テ收入官吏ニ現金ヲ納入セシモノナルトキハ其ノ旨ヲ收入官吏ニ通知シ又ハ納入告知書ニ依リ金庫ニ現金ヲ納入セシモノナルトキハ歳入徴收官ヨリ又ハ現金拂込書ニ依リ納入セシモノナルトキハ收入官吏ヨリ關係金庫ニ其ノ訂正(科目訂正ノ場合ヲ除ク)ヲ請求スヘシ

前各項ニ依リ誤記ノ訂正ヲ爲スハ翌年度六月三十日限トス

第十八條 歳入徴收官ハ收入未濟額ニシテ後年度ニ繰越ヲ要スルモノアルトキハ明治二十四年^八大藏省訓令第六十八號同二十五年^四同省訓令第二十五號及同三十一年^二同省訓令第十二號ニ依

リ歳入繰越額計算表ヲ翌年度四月七月ノ兩度ニ於テ調製シ其ノ月十五日迄ニ提出スヘシ

第十九條 歳入徴收官ハ歳入金ノ過誤納ヲ發見シ其ノ下戻ヲ要スルトキハ第九號書式ノ諸拂戻金仕拂請求書ヲ調製シ權利者ノ請求書ヲ添ヘ提出スヘシ

第二十條 歳入徴收官ハ明治三十四年^六會計検査院達第四號租稅外歳入徴收額證明規程ニ依リ歳入徴收額計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ翌年度四月二十日迄ニ提出スヘシ

第二十一條 收入官吏ハ明治三十三年^五會計検査院達第二號收入證明規程ノ様式ニ依リ收入計算

書ヲ調製シ證據書類及會計規則第九十二條ノ檢定書ヲ添ヘ翌年度四月十五日迄ニ之ヲ歳入徴收官ニ送付シ歳入徴收官ハ四月二十日迄ニ下檢査ヲ執行シ第十號書式ノ下檢査書ヲ添ヘ之ヲ提出スヘシ

第二十二條 歳入徴收官交替シタルトキハ直ニ關係ノ金庫ヘ其ノ旨ヲ通知スヘシ
收入官吏交替シタルトキハ其ノ在職期間取扱タル收入ノ計算書ヲ調製シ十五日以内ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四章 歳出

第二十三條 理事廳經費ハ仕拂命令官所在地ヲ除クノ外現金前渡ヲ爲ス

前項各目ノ現金ハ交互流用スルコトヲ得ス

第二十四條 經費ハ年度開始ノ際凡三箇月分ヲ前渡シ其ノ他ハ出納官吏ノ請求(三箇月分以内)ニ依リ前渡ス

前項ノ場合ニ於テハ出納官吏ハ第十一號書式ノ請求計算書ヲ提出スヘシ

第二十五條 出納官吏前渡金ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ現金出納簿及第十二號書式ノ經費内譯簿ニ登記スヘシ

第二十六條 金庫所在地ノ出納官吏ハ明治二十二年^月大藏省令第十三號出納官吏現金取扱規則第一條ニ依リ現金ヲ總テ金庫ヘ義務委託スヘシ

金庫ニ義務委託ヲ爲サムトスルトキハ明治二十六年^月大藏省訓令第六十三號様式ノ拂込書ヲ調製シ之ニ現金ヲ添ヘ金庫ヘ送付スヘシ

理事官出納官吏ヲ任命シタルトキハ其ノ資格、氏名ヲ金庫ニ通知シ出納官吏ハ其ノ資格、氏名ヲ記シタル印鑑ヲ金庫ニ送付スヘシ

第二十七條 金庫ノ設置ナキ地ノ出納官吏ハ出納官吏現金取扱規則第十一條又ハ第十四條ニ依リ

取扱フヘシ

前項ノ場合ニ於テ利息ヲ生シタルトキハ明治三十三年^月大藏省訓令第五十六號ノ規定ニ依ルヘシ

第二十八條 左ニ掲クル經費ハ債主ノ請求ヲ俟タズ仕拂ノ手續ヲ爲シ其ノ他ハ總テ其ノ請求ニ依リ之ヲ仕拂フヘシ

雇員給備人料(臨時傭入ニ係ル傭人ヲ除ク)、囑託手當、醫師補給金、慰勞金、宿料、被服費(代料ニ限ル)、地所家屋其ノ他借料、地所家屋公課、諸謝金、賄料、墓地管理費、看守俸給及給與

第二十九條 出納官吏經費ノ仕拂ヲ要スルトキハ第十三號乃至第十五號書式ノ仕拂回讞書ヲ作り經費内譯簿ニ對照シ前渡ヲ受ケタル現金及豫算額ニ超過スルトキハ又支出科目及所屬年度ヲ課ルコトナキヤ豫算ノ目的ニ違フコトナキヤ調査シ理事官ノ決定ヲ經テ執行スヘシ

第二十條 出納官吏旅費ノ概算渡ヲ爲シタルトキハ第十六號書式ノ旅費概算渡整理簿ニ登記シ歸應後五日以内ニ之カ精算ヲ爲サシムヘシ

第三十一條 出納官吏經費ノ仕拂ヲ爲シタルトキハ直ニ現金出納簿及經費内譯簿ニ登記スヘシ

第三十二條 出納官吏ハ明治三十三年^月會計檢査院達第二號仕拂證明規程ニ依リ毎月仕拂計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ翌月十日迄ニ之ヲ仕拂命令官ニ送付スヘシ

前項ノ計算書ニハ第十七號書式ノ理事官ノ保證書ヲ添附スヘシ

第三十三條 出納官吏ハ毎月第十八號書式ノ前渡金受拂明細書ヲ作り翌月十日迄ニ提出スヘシ

第三十四條 出納官吏過誤誤拂ヲ發見シタルトキハ速ニ回收ノ手續ヲ爲シ現金出納簿及經費内譯簿ニ登記シ又科目違ヲ發見シタルトキハ經費内譯簿ニ更正ノ登記ヲ爲スヘシ

最終仕拂計算書提出後前項ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ第十九號書式ノ報告書ヲ提出スヘシ

第三十五條 出納官吏過年度ニ屬スヘキ經費ノ仕拂ヲ要スルモノアルトキハ理事官ハ金額及事由

ヲ具シ仕拂命令官ノ指揮ヲ請フヘシ

第五章 工事及物件ノ賣買貸借

第一節 工事

第三十六條 理事廳ノ營繕工事ハ本府ニ於テ執行ス但シ時宜ニ依リ理事廳ニ於テ執行セシムルトキハ此ノ規定ニ依リ取扱フヘシ

第三十七條 理事廳ノ營繕工事ハ當分ノ内隨意契約ニ依リ指名入札ノ方法ヲ以テ請負ニ付スヘシ但シ一廉二千圓未滿ノ工事又ハ特種ノ理由アル場合ハ指名入札ノ方法ニ依ラス直ニ當業者ト契約ヲ締結スルコトヲ得

第三十八條 工事請負契約ハ理事官之ヲ擔任スヘシ但シ理事官事故アルトキハ他ノ官吏ニ擔任セシムルコトヲ得

第三十九條 工事請負入札及工事請負契約ハ左ノ區分ニ依リ保證金ヲ提供セシム但シ一廉二千圓未滿ノ工事又ハ特種ノ理由アル場合ハ保證人ヲ立テシメ本條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

一 入札保證金 見積價額ノ百分ノ五以上

二 契約保證金 請負金額ノ百分ノ十

第四十條 保證金ハ現金又ハ國債證券ニ限ル國債證券ノ價格ハ時價ノ八割トス但シ特別大日本五分利公債證券及國庫債券ノ價格ハ其ノ最低發行價格トス

第四十一條 工事請負入札者ニハ一定ノ期間内ニ工事仕様書、繪圖面、契約書案、工事請負人心得書及現場等ヲ熟覽セシメ入札書提出前ニ入札保證金ヲ納付セシムヘシ

第四十二條 入札書ハ第二十號書式ニ依リ之ヲ作り封緘ノ上其ノ氏名ヲ表記セシメ指定ノ時刻迄ニ差出サシムヘシ但シ代理人入札ノ場合ニハ其ノ委任狀ヲ要ス

一旦差出シタル入札書ハ之ヲ引換又ハ變更スルコトヲ得ス

第四十三條 契約擔任者ハ豫定價格調書ヲ作り封緘ノ上之ヲ開札ノ場所ニ置クヘシ

開札ハ入札人ノ面前ニ於テ契約擔任者之ヲ行フヘシ

第四十四條 開札ノ上各人ノ入札總テ豫定價格ニ超過シタルトキハ直ニ出席入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

第四十五條 入札保證金ハ入札執行ノ後落札人ヲ除クノ外即日之ヲ還付シ落札人ノ分ハ契約締結ノ上之ヲ還付スヘシ

第四十六條 契約擔任者ハ落札ノ當日ヨリ起算シ五日以内ニ契約保證金ヲ納付セシメ契約ヲ締結スヘシ

落札人前項ノ期間内ニ契約ヲ締結セサルトキハ該落札ヲ無効トシ入札保證金ハ政府ノ所得トス

第四十七條 工事竣功シタルトキ又ハ契約ニ依リ工事ノ既濟部分ニ對シ代價ノ一部分ヲ仕拂ハムトスルトキハ會計規則第六十七條ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第二節 物件ノ賣買貸借

第四十八條 物品ヲ購買セムトスルトキハ見本、雛形、圖面等ヲ示シ二人以上ヨリ見積書ヲ徴シ低價ノ者ト契約スヘシ但シ一廉五十圓未滿ノモノ又ハ特種ノ理由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條 物品ノ購買ハ理事官ノ決定ヲ經テ之ヲ執行スヘシ

第五十條 物品ヲ納付シタルトキハ精密ニ検査ヲ遂ケタル上之ヲ受取ルヘシ

第五十一條 不用物品ヲ賣却セムトスルトキハ豫メ其ノ價格ヲ評定シ現品ヲ示シ二人以上ヨリ見積書ヲ徴シ高價ノ者ト契約スヘシ但シ特種ノ理由アルトキ及第七十一條但書ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 賣却物品ハ代金ヲ領收シタル後ニ非サレハ之ヲ交付スルコトヲ得ス

第五十三條 物件貸借ノ必要アル場合ニ於テハ理事官其ノ理由ヲ具シ契約書案ヲ添ヘ指揮ヲ請フヘシ

第六章 歳入歳出外現金出納及保管物

第五十四條 明治二十三年勅令第二號ニ依リ取扱フ現金(入札及契約保證金、領置金、拾得金及給與工錢等ノ類)ハ之ヲ歳入歳出外現金トシ又明治二十六年勅令第七十號ニ依リ保管スル有價證券(入札及契約保證ノ爲提供シタル有價證券ノ類)及保管證書ヲ保管物トシ明治二十六年^九大藏省令第二十號保管物取扱規程ニ依リ處理スヘシ

第五十五條 歳入歳出外現金又ハ保管物ノ出納ヲ要スルトキハ理事官其ノ受拂ヲ命スヘシ

第五十六條 歳入歳出外現金出納官吏ハ現金出納簿及第二十一號書式ノ内譯簿ヲ設ケ受拂ヲ記入スヘシ但シ現金前渡官吏又ハ收入官吏等ヲ兼ネタル者ハ明治三十五年^三大藏省訓令第十號ニ依リ其ノ出納ヲ混記スルモノトス

第五十七條 保管物取扱主任ハ第二十二號書式ノ受拂簿ヲ調製シ其ノ受拂ヲ登記スヘシ

第五十八條 歳入歳出外現金出納官吏現金ヲ領收シタルトキ又ハ保管物取扱主任有價證券ヲ受ケタルトキハ保管物取扱規程第六條ニ依リ第三號様式ノ送付書ヲ調製シ現金又ハ有價證券ニ添ヘ金庫ニ送付スヘシ但シ明治二十三年^五大藏省訓令第七十八號ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

納入ヲシテ現金又ハ有價證券ヲ直ニ金庫ニ納入セシムルトキハ保管物取扱規程第三條ニ依リ第一號様式ノ寄託通知書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ

第五十九條 前條ノ場合ニ於テ金庫ニテ作りタル保管證書ハ保管物ノ取扱ヲ爲シ之ヲ金櫃ニ藏置スヘシ

第六十條 保管物ノ拂戻ヲ要スルトキハ第五十八條第一項ニ依リ取扱タルモノハ第六號様式ノ拂渡證書ヲ、第二項ニ依リ取扱タルモノハ第二號様式ノ裏書ヲ爲シ之ヲ權利者ニ交付スヘシ

第六十一條 保管金ヲ歳入ニ納付スル場合ニ於テハ保管物取扱規程第十四條ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第六十二條 歳入歳出外現金出納官吏ハ明治二十四年^三會計検査院達第二號歳入歳出外現金出納證明規程ニ依リ歳入歳出外現金出納計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ翌年度四月十日迄ニ又交替ノトキハ交替後十日以内ニ理事官ニ提出シ理事官ハ速ニ下検査ヲ執行シ下検査書(書式第十)ヲ添ヘ提出スヘシ

第七章 物品

第六十三條 物品ヲ大別シテ左ノ二種トス

第一類 備品及第二類ニ屬セサル物品

第二類 消耗品

第六十四條 物品會計官吏ハ第二十三號書式ノ帳簿ヲ備ヘ出納ヲ登記シ現品ヲ整理スヘシ

前項帳簿ノ外便宜補助簿ヲ備フルコトヲ得

第六十五條 左ノ物品ハ物品會計官吏ノ保管外トシ物品出納簿ニ登記スルヲ要セス

一 購入ノ際直ニ消費スルモノ

二 公文簿冊、電信符號、電話番號帳、官報及新聞雜誌等

第六十六條 物品ハ命令アルニ非サレハ出納スルコトヲ得ス

命令ノ形式ハ便宜之ヲ定ムヘシ

第六十七條 職員執務上專用物品ノ品類及員數ハ別ニ之ヲ定ム

第六十八條 特別文具ハ左ノ場合ニ限り官費支辨トス

一 筆墨 辭令用、筆、版用、小使用、受付用(公衆用)、訟廷用(公衆用)

一 ペン、ペン軸、簿記用、歐文用、旅券用

一 インキ

一 肉池及印肉 官印押捺用

二 製圖具 製圖用

第六十九條 職員用ノ物品ハ各專用者ヲシテ保管ノ責ニ任セシメ物品會計官吏之ヲ監督スヘシ
共用物品ハ物品會計官吏ノ保管トス

第七十條 物品ヲ故意怠慢ニ因リ亡失毀損シタルトキハ其ノ者ヲシテ物品又ハ代價ヲ以テ辨償
セシムヘシ

物品ノ亡失又ハ毀損者ヲ知ルコト能ハサル場合ニハ保管者辨償ノ責ニ任スヘシ但シ避クヘカラ
サル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十一條 物品中使用ニ堪ヘサルモノ又ハ將來使用ノ目途ナキモノニシテ價格アリト認ムルモ
ノハ經伺ノ上處分スヘシ但シ一廉十圓以内ノモノハ理事官ニ於テ之ヲ處分スルコトヲ得

第七十二條 理事官ハ物品會計規則第十二條ニ依リ検査官吏ヲシテ毎年度末日又ハ物品會計官吏
交替ノ際現在品及出納ノ實況ヲ調査セシメ第二十五號書式ノ調査ヲ作ラシムヘシ
物品會計官吏ハ物品會計規則第十八條ニ依リ前項ノ調査ヲ以テ計算書ニ代ヘ明治三十四年四會
計検査院達物品出納證明規程ニ依リ年度經過後又ハ物品會計官吏交替後一箇月以内ニ理事官ニ
提出シ理事官ハ下検査ヲ遂ケ下検査書(書式第十)ヲ添ヘ提出スヘシ

第八章 官有財産

第七十三條 理事官ハ其ノ所屬官有財産ノ保管及取締ヲ爲スヘシ

第七十四條 理事官ハ常ニ所屬官有財産ノ現況ヲ視察シ特ニ左ノ事項ニ注意スヘシ

一 官有財産ノ使用ハ適當ナリヤ否ヤ

二 官有財産ニ損害ヲ生スヘキ事情ナキヤ否ヤ

三 官有財産ノ毀損又ハ荒廢ニ屬スルモノナキヤ否ヤ

四 土地ノ境界ニ異狀ナキヤ否ヤ

第七十五條 官有財産ハ左ノ區別ニ從ヒ整理スヘシ

一 土地及其ノ附屬物

二 營造物及其ノ附屬物

三 家屋及其ノ附屬物

四 船舶及其ノ附屬物

第七十六條 官有財産ノ賣買、讓與、交換、貸付其ノ他物權ノ得喪又ハ變更ニ關スル事項及現狀ノ變
更ハ總テ經伺ノ上處分スヘシ

第七十七條 理事官ハ第七十五條ニ掲ケタル區別ニ從ヒ第二十六號書式ノ官有財産臺帳ヲ備ヘ其
ノ所屬ノ官有財産ヲ整理スヘシ

第七十八條 官有財産臺帳ニ登記シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ都度之ヲ更正スヘシ

第七十九條 理事官ハ其ノ所屬ノ土地建物及船舶ノ圖面ヲ備フヘシ

地圖及建物圖ハ第二十七號記載例ニ依リ船舶ノ圖面ハ適宜之ヲ調製スヘシ

圖面ニ變更ヲ要スヘキ事項ノ生シタルトキハ其ノ都度之ヲ更正スヘシ

第八十條 官有財産ノ價格ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ定ムヘシ

一 買上ニ係ルモノハ其ノ買上代價

二 新築ニ係ルモノハ其ノ建築費

三 交換ニ依テ得タルモノハ其ノ評定價格

四 所管轉換ニ依テ得タルモノハ其ノ目錄價格

第八十一條 官有地ノ境界ハ之ヲ明確ニシ界標ノ設ナキモノハ成ルヘク不朽ノ物質ヲ以テ建設スヘシ

第八十二條 官有財産ノ現在目録ハ第二十八號書式ニ依リ十年毎ニ其ノ年三月三十一日ノ現在ヲ調査シ翌年度四月三十日迄ニ統監官房會計課長ニ報告スヘシ

前項ノ報告期間ハ明治二十四年四月一日ヨリ之ヲ起算ス

第八十三條 毎會計年度間ニ於ケル官有財産ノ増減異動ハ左ノ四期ニ分チ第二十九號書式ニ依リ之ヲ調査シ翌月二十日迄ニ統監官房會計課長ニ報告スヘシ

- 一 第一期 自四月 至六月
- 二 第二期 自七月 至九月
- 三 第三期 自十月 至十二月
- 四 第四期 自一月 至三月

前項ノ期間ニ増減異動ナキモノハ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第八十四條 前二條ノ報告書ニハ第七十九條第二項ニ依リ調製シタル土地建物及船舶ノ圖面ヲ添附スヘシ

第八十五條 第七十五條ニ掲ケタル官有財産中營造物及其ノ附屬物ヲ家屋及其ノ附屬物ニ組換ヘ家屋及其ノ附屬物ヲ營造物及其ノ附屬物ニ組換ヘ又ハ甲地ニ在ル物件ヲ乙地ニ移轉シ若ハ主タル物件ト附屬物トノ組換ヲ爲シタルトキハ第八十三條ノ報告例ニ依ルヘシ

第八十六條 官有財産ノ名稱又ハ建物ノ番號ヲ變更シタルトキハ第三十號書式ノ報告書ヲ又建物ノ内部ニ變更ヲ加ヘ既ニ報告シタル建物圖ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ更正圖面ヲ調製シ第八十三條ノ報告書ニ添附シテ提出スヘシ

第八十七條 天災其ノ他ノ災害ニ因リ官有財産ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ事實ヲ詳具シ直ニ申報スヘシ

第九章 恩賞諸祿

第八十八條 恩賞諸祿ノ豫算ハ令達ヲ爲サス統監府備付ノ臺帳ニ基キ支給期前ニ前渡ス

第八十九條 理事官ハ第三十一號書式ノ恩賞諸祿臺帳ヲ備ヘ異動ノ都度加除訂正スヘシ

第九十條 恩賞諸祿ハ總テ證書ヲ檢閲シ臺帳ト照合シ其ノ異狀ナキヲ認メタル上ニ非サレハ現金ノ仕拂ヲ爲スヘカラス

仕拂ヲ爲シタルトキハ臺帳ニ其ノ仕拂年月日ヲ記入スヘシ

他管下居住ノ者ヘ仕拂ヲ爲ス場合ニハ現住地ノ地方廳ヘ通報シ證書檢閲濟ノ報告ヲ得テ送金ノ取扱ヲ爲スヘシ

第九十一條 毎年四月一日ヨリ翌年五月三十一日マテノ仕拂濟額ハ第三十二號書式ノ仕拂明細書ヲ作り翌年六月十日迄ニ提出スヘシ

第九十二條 他管廳ヨリ統監府ヲ經由セスシテ恩賞諸祿受領者ノ引繼ヲ受ケタルトキハ其ノ引繼書ノ寫ヲ提出スヘシ

他管廳ヘ引繼ヲ爲ストキハ第三十三號書式ノ引繼書ヲ作り統監府ヲ經由スヘシ

第九十三條 恩賞諸祿受領者又ハ遺族ヨリ死亡又ハ結婚復籍丁年、行方不明、改氏名等ノ届出アリタルトキハ第三十四號書式ノ異動通知書ヲ提出スヘシ

第九十四條 新ニ發付セラレタル恩賞諸祿ノ證書又ハ辭令書ヲ統監府ヲ經由セスシテ他管廳ヨリ轉送シ來リタルトキハ速ニ臺帳ニ登記シ其ノ寫ヲ添ヘ申報スヘシ

第九十五條 改氏名ノ届出ヲ受ケタルトキハ本人ヨリ證書ヲ提出セシメ證書ノ裏面ニ理事官其ノ事由ヲ記載シ署名捺印ノ上交付スヘシ

水火災盜難等ニ因リ證書亡失ノ届出ヲ受ケタルトキハ理事官ハ其ノ事實ヲ調査シ事由ヲ具シ申報スヘシ

第九十六條 明治二十三年七月閣令第三號官吏恩給法施行規則第十三條ノ通知ハ當府ヲ經由スヘシ

第十章 諸貸付金

第九十七條 諸貸付金ハ理事官之ヲ管理シ明治二十六年七月十二 大藏省訓令第七十七號諸貸付金取扱規程ニ依リ取扱フヘシ

第九十八條 本府ヲ經由セスシテ他管廳ヨリ諸貸付金ノ引繼ヲ受ケタルトキハ左ノ事項ヲ申報スヘシ

- 一 前管廳名
 - 二 貸付ノ種類及金額
 - 三 返納期限
 - 四 据置ノ事由
 - 五 契約ノ要旨
 - 六 債務者及保證人ノ住所氏名
- 第九十九條 理事官ハ第二十五號書式ノ簿帳ヲ備ヘ諸貸付金取扱規程第三條ノ各事項ヲ登記スヘシ
- 第一百條 雜種貸ニ係ルモノハ各期限ニ收納ノ手續ヲ爲シ据置貸ニ係ルモノハ常ニ債務者ノ狀況ニ注意シ年度末ニ職員ヲ派出シ其ノ實況ヲ調査セシメ返納シ得ヘキ資力アリト認ムル者アルトキハ速ニ收納ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第一百一條 諸貸付金取扱規程第五條及第六條ノ事項ヲ生シタルトキハ大藏大臣ニ宛テタル稟申書ヲ本府ニ提出スヘシ
- 第一百二條 諸貸付金取扱規程第七條ニ依リ債務者轉居先ノ管廳ヘ引繼クモノ同規程第八條及第十條ノ報告ハ本府ヲ經由スヘシ但シ理事廳間ニ引繼ヲ爲ス場合ニ於テハ直ニ其ノ手續ヲ爲シ本府ニ報告スヘシ

附則

第一百三條 本令ニ抵觸スル從來ノ訓令ハ之ヲ廢止ス

○統監府訓令第十二號(官報七月七日)

統監府臨時時間島派出所 統監府法務院

統監府臨時時間島派出所並統監府法務院會計事務ニ關スル手續ハ理事廳會計事務章程ニ依ルヘシ但シ同章程中理事官ノ職務ハ統監府臨時時間島派出所ニ在リテハ所長、統監府法務院ニ在リテハ院長、屬ノ職務ハ統監府臨時時間島派出所ニ在リテハ事務官又ハ屬、統監府法務院ニ在リテハ書記之ヲ行フ

附則

本令ニ抵觸スル從來ノ訓令ハ之ヲ廢止ス

明治四十一年六月二十八日

○統監府訓令第十三號(官報七月二十三日)

統監 公爵伊藤博文

統監府臨時時間島派出所

統監代理 子爵曾禰荒助

副統監 子爵曾禰荒助

明治四十一年七月十八日

統監府臨時時間島派出所分課規程

第一條 統監府臨時時間島派出所ニ總務課、警務課、調査課及監察課ヲ置ク

各課ノ事務ノ分掌ハ統監ノ認可ヲ承ケ所長之ヲ定ム

第二條 各課ヨリ所長ニ提出スヘキ報告ハ總務課ヲ經由スヘシ

第三條 各課ニ課長ヲ置ク

課長ハ事務官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 當分ノ内囑託員ヲシテ課長ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

○統監府訓令第十四號(官報七月三十日)

統監府臨時島派出所

統監府臨時島派出所長ハ其ノ主管事務ニ關シ左記ノ事項ヲ專行スルコトヲ得但シ特ニ重要ナル

モノト恩料スルトキハ豫メ意見ヲ具シ統監ノ認可ヲ受クヘシ

一 判任官以下ニ除服出仕ヲ命スルコト

二 判任官以下ノ看護歸省及其ノ他ノ請暇ヲ許否スルコト

三 高等官以下ニ滿洲及韓國内出張ヲ命スルコト

四 判任官待遇以下ノ囑託、雇員及傭人ノ進退及賞與ニ關スルコト

五 部下職員ノ服務ヲ指定スルコト

第一號乃至第三號ハ統監府ノ名ヲ以テ施行スヘシ

第一號乃至第四號ハ施行ノ都度統監ニ報告スヘシ

統監代理

明治四十一年七月二十五日

副統監 子爵曾禰荒助

○内務省訓令第七號

明治十二年^六内務省乙第三十一號達神社明細帳書式中境外所有地ノ項ハ本年九月三十日限り之ヲ

削除ス

北海道廳 府縣

明治四十一年八月二十八日

内務大臣 法學博士男爵平田東助

○大藏省訓令第四十二號

帝國鐵道廳取扱ニ係ル歳入金ハ日本銀行木支店出張所、代理店若クハ東京市、大阪市、神戸市及名古屋

屋市ニ於ケル手形交換所組合銀行ニ宛テ振出シタル小切手ニシテ其銀行ノ支拂保證アルモノヲ以

テ納付セシムルコトヲ得

小切手ヲ以テ納付シ得ヘキ歳入金ノ種目ハ逓信大臣之ヲ定ム

明治四十一年八月六日

大藏大臣 侯爵桂太郎

○大藏省訓令第四十三號

警視廳 北海道廳 府 縣 大臣官房會計課

造幣局 印刷局 專賣局 稅務署 釀造試驗所 大藏省臨時建築部

稅務監督局 稅務署 釀造試驗所 大藏省臨時建築部

本年^三大藏省訓令第十二號明治四十一年度大藏省所管歳入科目表歳入經常部第一款租稅第十一項

兌換銀行券發行稅中ニ第二目兌換銀行券制限外發行稅ノ目ヲ追加ス

明治四十一年八月二十九日

大藏大臣 侯爵桂太郎

○陸軍省訓令第二十五號

明治四十一年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス
明治四十一年八月十二日

陸軍大臣 子爵寺内正毅
陸軍一般

歳出經常部

△印増設

款	項	目	節
軍事費	修繕費	末位ニ 重砲兵第六聯隊敷 地水害復舊	

○陸軍省訓令第二十六號

明治四十一年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス
明治四十一年八月十五日

陸軍大臣 子爵寺内正毅
陸軍一般

歳出經常部

△印増設

款	項	目	節
軍事費	修繕費	末位ニ 名古屋衛戍病院傳 染病室移轉其他 廣島海軍要港通信網 修繕	

○陸軍省訓令第二十七號

明治四十一年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス
明治四十一年八月三十一日

陸軍一般

歳出經常部

△印増設

款	項	目	節
軍事費	修繕費	末位ニ 近衛歩兵第四聯隊 構内池埋立	

○司法省訓令第二號

明治三十四年司法省訓令第十一號在監人賞察規程ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ廢止ス
明治四十一年八月十四日

監獄

○司法省訓令第三號

明治三十五年^{十二}司法省訓令第四號中在監人員監督日表ヲ在監人員日表ニ改メ其様式ヲ別紙ノ通
改正ス

監獄

明治三十八年^六司法省訓令第三號中監房配置表ノ内上欄表ノ様式別紙ノ通改正ス
本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別紙ハ別ニ之ヲ頒ツ)

明治四十一年八月二十一日

司法大臣 子爵岡部長職

○司法省訓令第四號

監獄

身分帳簿様式別冊ノ通相定ム但別冊ハ別ニ之ヲ頒ツ
名籍原簿ハ身分帳簿ヲ以テ代用スルコトヲ得
拘留囚名籍ハ三十日未滿ノ勞役場留置者ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

囚人身分帳及ヒ書信簿ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治四十一年八月二十八日

司法大臣 子爵岡部長職

○司法省訓令第五號

監獄

共犯名簿、接見簿及ヒ死亡帳様式別紙ノ通改正シ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但別紙ハ別ニ之ヲ頒ツ

明治四十一年八月二十八日

司法大臣 子爵岡部長職

○農商務省訓令第二十三號

府縣

明治四十一年三月農商務省訓令第八號科目表中歲出臨時部產業獎勵費ノ款植樹獎勵費ノ項ノ末位ニ退官賜金ノ目ヲ設置ス

明治四十一年八月十五日

農商務大臣 男爵大浦兼武

○内閣訓令第一號

北海道廳 府縣

明治三十一年十一月十一日 内閣訓令第一號甲號中左ノ通改正ス

明治四十一年九月三十日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

人口統計材料統計表取扱手續第十條第二項中「東京市京都市大阪市ニ於テハ區長ヲ指スモノトス」ヲ「區長ヲ以テ戶籍吏ニ充ツル市ニ於テハ區長ヲ指スモノトス」ニ改ム

第二號 本籍人口有配偶者無配偶者生年別(年別) 北海道府縣都市町村名 明治 年 月 日 現在

生年	有配偶		無配偶		合計	
	男	女	男	女	男	女
明治四十一年生						
同 四十年生						
同 三十九年生						
同 三十八年生						
同 三十七年生						
計						
同 三十六年生						
同 三十五年生						
同 三十四年生						

第一種形(住居移轉者ニ交附スルモノ)

用紙爲ノ子堅五寸横七寸

假出獄者旅券

府縣郡市區町村番地(本籍地並ニ假出)

族籍 氏名 年月日生

一 刑名刑期 年月日 自明治 年月日

一 假出獄期間 年月日 自明治 年月日

一 旅行許可 年月日

一 移轉先地名

明治 年月日迄ニ移轉先ニ到着スヘシ

假出獄取締細則第六條ニ依リ此旅券ヲ交附ス

警察署(分署)長

官氏名印

年月日

注意事項

- 一 旅行途中宿泊セントスルトキハ警察官署ニ出頭シ認印ヲ受クヘシ
- 一 途中天災疾病其ノ他ノ事故ニ依リ豫定ノ旅行ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ遅滞ナク其ノ事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受ケ行先地ニ到着シタルトキハ警察官署ニ提出スヘシ
- 一 旅行中同一場所ニ一月以上滞在スルトキハ其ノ地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭スヘシ
- 一 旅行ヲ止メ又ハ行先地ニ到着シタルトキハ遅滞ナク此ノ旅券ヲ還納スヘシ
- 一 此ノ旅券ヲ毀損亡失シタルトキハ速ニ所在警察官署ニ出頭具申スヘシ

(面 裏)

認印表

警察署(分署)

同

同

同

明治 年月日
府縣郡市區町村
番地某方ニ宿泊

印

(面 裏)

第三離形(帝國外旅行者ニ交附スルモノ)

用紙守法同上

假出獄者旅券(本旅券ノ效力ハ帝國内ニ限ルモノトス)

府縣郡市區町村番地(本番地ニ出)

族籍 氏名 年月日生

一 刑名 利期
一 假出獄期間 年月日 至 年月日

一 旅行許可 年月日

一 旅行ノ事由

一 渡航先

一 出發 年月日

一 出發港
明治 年 月 日迄ニ(出發港)ニ到着スヘシ
假出獄取締規則第八條ニ依リ此旅券ヲ交附ス

警察署(分署)長

官氏名印

年月日

注意事項

- 一 旅行途中宿泊セントスルトキハ警察官署ニ出頭シ認印ヲ受クヘシ
- 一 途中天災疾病其ノ他ノ事故ニ依リ豫定ノ旅行ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ其ノ處アルトキハ迎滞ナク其ノ事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受ケ出發港ニ歸著シタルトキハ警察官署ニ提出スヘシ
- 一 旅行中同一場所ニ一月以上滞在スルトキハ其ノ地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭スヘシ
- 一 旅行ヲ止メ又ハ出發港ニ歸著シタルトキハ迎滞ナク此ノ旅券ヲ其ノ地ノ警察官署ニ納附スヘシ
- 一 此ノ旅券ヲ毀損亡失シタルトキハ速ニ所在地警察官署ニ出頭具申スヘシ

(面 裏)

認印表

警察署(分署)

同

同

同

明治 年 月 日
府縣郡市區町村
番地某方ニ宿泊

印

(面 裏)

第四雜形

用紙寸法適宜

假出獄者滞在證明書

府縣郡市區町村番地(不附地租ノ假出)

族籍 氏名 年月日生

一滞在ノ事由

一滞在ノ場所

一滞在地ニ到着シタル年月日

一滞在期間

假出獄取締規則第三條ニ依リ此ノ證明書ヲ添附ス

年月日

警察署(分署)長

官氏名印

○大藏省訓令第四十四號

警視廳 北海道廳 府 縣 大臣官房會計課
印刷局 造幣局 專賣局 稅
稅務監督局 稅務署 釀造試驗所 大藏省臨時建築部
本年^三大藏省訓令第十二號明治四十一年度大藏省所管歲入科目表歲入經常部第四款雜收入第五項
雜入中ニ第十目臺灣銀行配當金ノ目ヲ追加ス

○大藏省訓令第四十五號

大藏大臣 侯爵桂太郎

明治三十八年^八大藏省訓令第二十七號中第三項ヲ刪除ス

北海道廳

明治四十一年九月三十日

內務大臣 法學博士 侯爵平田東助
大藏大臣 侯爵桂太郎

〔參照〕

大藏省訓令第二十七號北海道地方數ニ歸屬シタル罹災救助貸與金取扱要項(明治三十八年三月二十七日)抄錄
第三項 債權ノ拋棄又ハ既定契約ノ變更ニ付テハ特ニ內務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス但シ
繰上ケ返納ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

○陸軍省訓令第二十八號

明治四十一年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス

陸軍一般

明治四十一年九月十二日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

歳出經常部

款	項	目	節
軍 事 費	修 繕 費		
		未位二	
		長崎重砲兵大隊給	
		水鏡管理替	
		野砲兵第十四十五	
		聯隊兵舍移轉其他	

○陸軍省訓令第二十九號

明治四十一年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十一年九月二十二日
歳出臨時部

陸軍大臣 子爵寺内正毅
△印増設

陸軍一般

款	項	目	節
未位二	傳染病豫防費		
		第四兵第三師隊及由員病院	
		第四兵第三師隊及由員病院	
		第四兵第三師隊及由員病院	

○陸軍省訓令第三十號

明治四十一年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十一年九月二十六日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

陸軍一般

歳出經常部

款	項	目	節
軍 事 費	雜給及雜費		
		給	
		與	
		未位二	
		特別手當	

○陸軍省訓令第三十一號

明治四十一年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十一年九月二十九日
歳出經常部

陸軍大臣 子爵寺内正毅
△印増設

陸軍一般

款	項	目	節
軍 事 費	修 繕 費		
		未位二	
		臺北陸軍宿舍其他	
		修繕費	

○司法省訓令第六號

監獄作業規程左ノ通改正ス

明治四十一年九月十六日

司法大臣 子爵岡部長職

監獄

監獄作業規程

- 第一條 作業種類ノ認可ヲ受クルニハ作業ノ種目、施業方法、就業方法、就業者ノ種類、就業人員、作業課程、見積工錢、就業ノ場所及ヒ器具器械ニ關スル事項ヲ申請書ニ記載シ仍ホ官司業ニ付テハ收支豫算ノ内譯書、受負業ニ付テハ契約ノ案文ヲ附添ス可シ
- 監外作業ニ係ルトキハ前項ニ依ル外就業者ノ選擇及ヒ取締ニ關シ意見ヲ附ス可シ
- 第二條 認可ヲ受ケタル作業ヲ廢止シ又ハ其施業方法、作業課程若クハ見積工錢ヲ變更シタルトキハ事由ヲ具シ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ
- 第三條 作業ニ付テハ作業主任及ヒ作業擔當者ヲ定ム可シ
- 作業主任ハ看守長、作業擔當者ハ看守若クハ女監取締ヲ以テ之ニ充ツ可シ
- 第四條 作業ハ典獄若クハ分監長ノ命令アルニ非ラサレハ之ニ著手スルコトヲ得ス
- 第五條 作業ノ命令ヲ爲スニハ作業原簿ニ必要事項ヲ記載シ典獄若クハ分監長之ニ證印ス可シ
- 作業原簿ハ官司業ニ付テハ第一號乃至第三號書式、受負業ニ付テハ第四號及ヒ第五號書式、委託業ニ付テハ第六號及ヒ第七號書式ニ依リ之ヲ作成ス可シ
- 第六條 作業主任作業ノ命令ヲ受ケタルトキハ速ニ命令ノ旨趣ヲ作業擔當者ニ通知シ作業原簿ニ通知ノ年月日ヲ記載シ且作業擔當者ヲシテ之ニ證印セシム可シ
- 第七條 作業擔當者作業命令ノ通知ヲ受ケタルトキハ速カニ作業ノ種類及ヒ方法ヲ就業者ニ指示シ其實行ニ著手セシム可シ
- 工場内ニ於ケル製作又ハ修繕ニ係ルトキハ工場作業簿、農作ニ係ルトキハ農場作業簿ニ命令ノ要旨及ヒ通知ヲ受ケタル年月日ヲ記載シ置ク可シ
- 第八條 作業主任ハ毎日始業時ニ於ケル就業人員ヲ調査シ第八號書式ニ依リ作業人員日表ヲ作成ス可シ

第九條 作業擔當者ハ毎日終業ノ際作業ノ成績ヲ検査シ且作業ニ使用シタル器具器械ヲ點檢ス可シ

作業成績ヲ検査シタルトキハ作業擔當者ハ第九號書式ノ日課表ニ其成績ヲ記入シ翌月二日マテニ之ヲ作業主任ニ差出ス可シ

第十條 物品ノ製作若クハ修繕ヲ終リ又ハ農作物ヲ收穫シタルトキハ作業擔當者ハ其都度品目及ヒ數量ヲ工場作業簿若クハ農場作業簿ニ記載シ置キ作業主任ニ物品引渡ノ通知ヲ爲ス可シ

製作、修繕又ハ農作以外ノ作業ヲ終リタルトキハ作業主任ニ完成ノ通知ヲ爲ス可シ

第十一條 作業主任物品引渡ノ通知ヲ受ケタルトキハ先ツ物品ノ品目、數量及ヒ仕上ノ模様ヲ検査ス可シ

物品ノ引渡ヲ終リタルトキハ作業擔當者ハ引渡ノ年月日ヲ工場作業簿若クハ農場作業簿ニ記載シ作業主任ノ證印ヲ受ク可シ

前條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ作業完成ノ年月日、就業人員及ヒ工錢ヲ作業原簿ニ記載シ典獄若クハ分監長ノ證印ヲ受ク可シ

第十二條 作業主任物品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ必要事項ヲ作業原簿ニ記載シ典獄若クハ分監長ノ證印ヲ受ク可シ

引渡ヲ受ケタル物品ニシテ受負又ハ委託ニ係ルトキハ受負者又ハ委託者ニ對シ交付ノ通知ヲ爲ス可シ

一私人ノ委託ニ係ルトキハ十日以内ニ代金納付ノ上物品ヲ引取ルヘキ旨ヲ通知ス可シ

第十三條 完成品ノ内渡ヲ爲ストキハ作業原簿ニ典獄若クハ分監長ノ證印ヲ受ク可シ

物品ノ交付ヲ終リタルトキハ其都度作業原簿ニ受領者ノ認印ヲ徵ス可シ

第十四條 作業主任ハ監獄官會議ノ決議ニ基キ作業賞與金計算高報告書及ヒ第十號書式ノ作業月

表ヲ作成ス可シ

前項ノ作業費與金計算高報告書ハ毎月十四日マテニ之ヲ典獄若クハ分監長ニ差出ス可シ

第十五條 官司業ニ係ル製作品及ヒ農作物ハ材料及ヒ工錢ヲ以テ其原價トシ左ノ標準ニ依リ賣却價額ヲ算定ス可シ

一 監獄需用ノ物品ハ原價但シ漸次收獲スル農作物ニ付テハ市價ヲ參酌ス可シ

二 他ニ賣却スヘキ物品ハ市價

修繕品ニ付テハ前項ノ例ニ準シ修繕價額ヲ算定ス可シ

第十六條 受負業ニ付テハ受負期間、就業人員及ヒ受負工錢ヲ豫定スルコトヲ要ス

物品ノ製作又ハ修繕ヲ目的トスル受負業ニ付テハ一切ノ器具、器械及ヒ素品ヲ受負者ヨリ提供セシムルコトヲ要ス

第十七條 受負契約ヲ締結スルニハ以下十條ノ規定ニ準據シ契約證書ニ其旨趣ヲ明記ス可シ

第十八條 受負期間ハ二月以上一年以下ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ム可シ但期間滿了ノ際更新スルコトヲ妨ケス

第十九條 就業人員ハ成ル可ク一日二十人以上百人以下トシ其範圍内ニ於テ最多限及ヒ最少限ヲ定ム可シ

第二十條 受負工錢ハ就業人員一人ニ對スル一日ノ賃金ヲ以テ之ヲ定メ毎月十五日迄ニ前月分ヲ支拂ハシム可シ

第二十一條 器具、器械及ヒ素品ハ遲滞ナク之ヲ豫納セシメ製品ハ指定ノ期間内ニ之ヲ引取ラシム可シ

第二十二條 作業ノ方法及ヒ取締ハ總テ監獄ノ法規及ヒ監獄官吏ノ指揮ニ從ヒ受負者ヲシテ之ニ干與セシムルコトヲ得ス

第二十三條 法令ノ結果、天災事變、傳染病流行其他已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ付テハ作業ヲ休止シ又ハ直ニ契約ノ解除ヲ爲ス權利ヲ留保ス可シ

第二十四條 左ノ場合ニ付テハ直ニ契約ノ解除ヲ爲ス權利ヲ留保ス可シ

一 受負者死亡シ隱居ヲ爲シ又ハ破産シタルトキ

二 受負者工錢ヲ支拂ハス其他契約上ノ義務ニ違背シタルトキ

第二十五條 工錢ノ不拂其他違約ノ場合ニ對スル擔保トシテ少クトモ二箇月分ノ工錢ニ相當スル金錢又ハ有價證券ヲ受負者ヨリ提供セシム可シ

第二十六條 受負者ノ責ニ歸ス可キ事由ニ因リ休業シタルトキハ前日ト同額ノ工錢ヲ支拂ハシム可シ

第二十七條 器具、器械、素品及ヒ製品ノ保管竝ニ仕事ノ瑕疵ニ付テハ總テ賠償ノ責任ヲ負フコトヲ得ス

第二十八條 受負業ニ關スル器具、器械若クハ素品ノ出納ハ作業主任之ヲ第十一號書式ノ器具器械受拂簿若クハ第十二號書式ノ素品受拂簿ニ記載シ之ニ受負者ノ認印ヲ徵ス可シ

第二十九條 委託業ニ付テハ委託工錢ヲ豫定スルコトヲ要ス

物品ノ製作又ハ修繕ヲ目的トスル委託業ニ付テハ素品ヲ委託者ヨリ提供セシムルコトヲ要ス但作業ニ附随スル用品ハ監獄ニ於テ之ヲ供給スルコトヲ妨ケス

第三十條 第二十二條第二十三條及ヒ第二十七條ノ規定ハ委託契約ニ之ヲ準用ス

第三十一條 委託契約ヲ締結スル際必要アリト認ムルトキハ委託者ヲシテ相當ノ擔保ヲ提供セシム可シ

第三十二條 委託業ニ關スル素品ノ出納ハ第十二號書式ノ素品受拂簿ニ記載シ其都度之ニ委託者ノ認印ヲ徵ス可シ

明治四十一年九月 訓令 司法省第六號 監獄作業規程

附則

本規程ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
本規程施行ノ際現存スル受負業及ヒ委託業ハ従前ノ例ニ依ルコトヲ得
(書式ハ別ニ之ヲ頒ツ)

○司法省訓令第七號

監獄

假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續左ノ通相定ム

司法大臣 子爵岡部長職

明治四十一年九月十八日

假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續

第一條 假出獄ノ具申書ニハ假出獄ヲ許ス可キ者ノ住所、氏名、年齢、罪名、犯數、刑名、刑期、刑期ノ起算日ニ終了日、刑期三分ノ一ニ相當スル日、假出獄ヲ許ス事由、出獄後ニ於ケル保護者ノ住所、氏名、職業、生活ノ状態及ヒ保護者ト本入トノ關係ヲ記載ス可シ

第二條 假出場ノ具申書ニハ假出場ヲ許ス可キ者ノ住所、氏名、年齢、罪名、犯數、刑名、刑期、若クハ金額、刑期ノ起算及ヒ終了日、假出場ヲ許ス事由ヲ記載ス可シ

第三條 監獄法施行規則第七十二條ニ依リ假出獄ノ具申書ニ添附ス可キ行狀録ハ身分帳簿乙號行狀録最近一年六月分ノ寫ヲ以テ之ニ充テ、身上調査書類ハ身上票及ヒ公務所其他ノ回答書ニシテ特ニ參考ト爲ル可キモノノ寫ヲ以テ之ニ充ツ可シ

第四條 刑期三分ノ一ヲ算出スルニハ左ノ例ニ依リ曆ニ從ヒ計算ス可シ
一 刑期三年以下ニシテ年ノミニ係ルトキハ年ヲ月ニ換算シテ之ヲ三分シ其商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

二 刑期三年以上ニシテ年ノミニ係ル場合ニ於テ其儘三分スルコト能ハサルトキハ先ツ年ヲ三分シテ其商ヲ得、年ノ端數ハ之ヲ月ニ換算シテ之ヲ三分シ月ノ商ヲ得、年ト月トノ商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

三分シテ其商ヲ得、年ノ端數ハ之ヲ月ニ換算シテ之ヲ三分シ月ノ商ヲ得、年ト月トノ商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

三 刑期三年以下ニシテ年ト月トニ跨ルトキハ先ツ年ヲ月ニ換算シ之ニ刑期ノ月ヲ加ヘテ其和ヲ三分シ因テ得タル商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

四 刑期三年以上ニシテ年ト月トニ跨ル場合ニ於テ其儘三分スルコト能ハサルトキハ先ツ年ヲ三分シテ年ノ商ヲ得、年ノ端數ハ月ニ換算シ之ニ刑期ノ月ヲ加ヘ其和ヲ三分シテ月ノ商ヲ得、月ノ端數ハ次ノ方法ニ依リ計算ス

(イ) 先ツ刑期起算日ヨリ年ト月トノ商ニ相當スル期間ヲ曆ニ從ヒ計算シ其期間ノ最終日ヲ定ム

(ロ) 次ニ(イ)號ノ最終日ノ翌日ヲ起算點トシテ月ノ端數ヲ曆ニ從ヒ計算シ其期間ニ相當スル日數ヲ算出ス

(ハ) (ロ)號ニ依リ算出シタル日數ヲ三分シテ日ノ商ヲ得、更ニ(イ)號ノ最終日ノ翌日ヲ起算點トシテ日ノ商ニ相當スル期間ヲ計算シ其最終日ヲ定ム但日ノ端數ヲ生スルトキハ商ヲ一日繰上クルモノトス

五 年ト月ト日トニ跨リ其儘三分スルコト能ハサルトキハ四號(イ)(ロ)ノ例ニ準シ日數ヲ算出シ其算出シタル日數ニ刑期ノ日ヲ加ヘ之ヲ三分シテ日ノ商ヲ得、四號(ハ)ノ例ニ依リ計算ス

六 月ト日トニ跨リ又ハ日ノミニ係ル場合ニ於テ其儘三分スルコト能ハサルトキハ前號ノ例ニ準シ計算ス

七 刑期ニ算入ス可キ日數アルトキハ先ツ全刑期ノ最終日ヨリ遡テ算入ス可キ日數ヲ控除シ其殘期ノ三分ノ一ヲ計算ス

第五條 假出獄證票ハ別記第一號書式ニ依リ之ヲ作成シ假出場證票ハ別記第二號書式ニ依リ之ヲ作成ス可シ

第六條 假出獄又ハ假出場ニ因リ釋放シタルトキハ許可書到達ノ年月日時及ヒ釋放シタル年月日時ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第七條 典獄ハ假出獄取締細則第十四條ニ依リ假出獄者ニ關スル調査書ヲ受ケタルトキハ其都度意見ヲ附シ司法大臣ニ申報ス可シ

附則
本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十九年司法省訓令第二號假出獄證票ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(別記)
(第一號書式)

(用紙厚紙、紙質適宜)

假出獄證票

府縣郡市區町村番地(本籍地並ニ假出)

氏名

年月日生

刑名刑期

明治 年 月 日ヨリ執行

明治 年 月 日刑期終了

假出獄期間 年 月 日 自明治 年 月 日 至明治 年 月 日

(面)

明治 年 月 日ニ住居ノ地

ニ到着ス可シ

假出獄ヲ許サレタルヲ以テ此證票ヲ附與ス

某監獄

典獄 氏 名印

認吏察及記
印ノ官警事

(裏)

假出獄者心得事項

- 一 監獄ヨリ指定セラレタル日限ニ住居ノ地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭シ此證票ニ認印ヲ受ク可シ若シ旅行數日ニ涉ルトキハ警察官署所在
- 二 地ニ宿泊シ其警察官署ニ出頭シ認印ヲ受ク可シ
- 三 天災、疾病、其他ノ事故ニヨリ前項ノ規定ニ從フコト能ハサルトキ又ハ其處アルトキハ遲滞ナク其事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受ク可シ此證明書ハ監督警察官署ニ提出シテ認印ヲ受ク可シ
- 四 正業ニ就キ旅行ヲ保ツ可シ
- 五 假出獄中ハ住居ノ地ヲ管轄スル警察官署ノ監督ヲ受ケ其指揮命令ニ從フ可シ
- 六 遲滞ナク監督警察官署ニ職業其他生計ニ關スル見込ヲ立テ之ヲ届出ツ可シ保釋者アルトキハ連署ヲ要ス
- 七 毎月一回監督警察官署ニ出頭シテ前項ノ事項ニ付其結果ヲ申述ス可シ旅行ノ許可ヲ得テ同一ノ場所ニ一月以上滞在スルトキハ滞在在地方管轄スル警察官署ニ對シ此申述ヲ爲ス可シ
- 八 三日以上十日未満ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ監督警察官署ニ其事

(面)

八 由行先地及旅行日數ヲ届出ツ可シ
 住居ヲ轉移シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行
 先地及旅行日數ヲ記載シテ監督警察官署ノ許可ヲ請ヒ旅券ヲ受ク
 可シ第一第二ノ規定ハ此場合ニ之ヲ準用ス

九 帝國外ニ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及旅行日數ヲ
 記載シテ監督警察官署及口證票ヲ交付シタル監獄ヲ經由シテ司法大臣
 ノ許可ヲ請フ可シ第八ノ規定ハ旅行ヲ許可セラレタル場合ニ之ヲ準
 用ス

十 旅行ヲ爲シタル場合ニ於テ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ運賃ナク監
 督警察官署ニ出頭シ旅券ヲ還納ス可シ

右假出獄者心得事項ニ違背シタルトキ又ハ左ニ掲クル事由アルトキハ假
 出獄ノ處分ヲ取消サルルコトアル可シ

一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
 二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
 三 假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ
 執行ヲ爲ス可キトキ

假出獄ノ處分ヲ取消サレタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサ
 ルモノトス

(第二號書式)

(用紙厚紙、紙質適宜)

假出場證票

府縣都市區町村番地(本籍地並ニ假出)

氏 名

年 月 日 生

罪名

拘留又ハ勞務場留置期間

明治 年 月 日ヨリ執行

明治 年 月 日滿期

假出場期間 年 月 日 自明治 年 月 日 至明治 年 月 日

假出場ヲ許サレタルヲ以テ此證票ヲ附與ス

明治 年 月 日

某監獄

典獄 氏 名 印

分 五 寸 五

寸 八

○文部省訓令第十號

北海道廳 府縣

今般文部省令第二十六號ヲ以テ小學校令施行規則中ニ改正ヲ加ヘ小學校ニ於テ教授ニ用フル假名
 及其ノ字體、字音假名遣竝ニ漢字ニ關スル規定ヲ削除セリ

假名ハ大體ニ於テ從來ノ規定ニ依ルヲ適當ト認ムルモ尙普通ニ行ハル、變體假名ヲ加ヘ授クルノ
 必要アリ漢字ノ數モ亦義務教育延長ノ結果相當ノ増加ヲ要ス是レ假名及其ノ字體竝ニ漢字ニ關ス
 ル規定ヲ削除シタル所以ナリ又字音假名遣ハ當初改正ノ際ハ兒童ヲシテ國語學習上ニ於ケル困難
 ヲ避ケンメントスル趣旨ニ出テタルモノナレトモ實施ノ結果ニ鑑ミ豫期ノ目的ニ副フコト能ハサ
 ルヲ認メタルヲ以テ今回國定教科用圖書改正ノ時期ニ迫レルヲ機トシ之ヲ廢止セリ惟フニ假名遣

ハ時勢ノ進歩ニ伴ヒ整理ヲ要スヘキコト勿論ナリト雖尙益々慎重ナル研究ヲ積ミ以テ其ノ目的ヲ達センコトヲ期ス

省令改正ノ結果字音假名遣ハ小學校ニ於テモ他ノ學校ニ於ケルカ如ク古來慣用ノ例ニ依ルヘク教科用圖書亦之ニ依リテ編纂セラルヘシ然レトモ字音假名遣ノ爲徒ニ國語ノ學習ヲ艱澁ニシ兒童ノ心神ヲ過勞セシムルカ如キハ務メテ之ヲ避ケサルヘカラサルヲ以テ敢テ細墨ニ拘泥スルヲ要セス便宜從前ノ假名遣ヲ許容スル等取捨其ノ宜シキニ從ヒ適當ノ教授ヲ施サンコトヲ要ス地方長官ハ事ニ兒童ノ教育ニ當ル者ヲシテ克ク此ノ意ヲ體シ以テ省令改正ノ趣旨ヲ貫徹セシメンコトヲ努ムヘレ

明治四十一年九月七日

文部大臣 小松原英太郎

○農商務省訓令第二十四號

大林區署

明治四十一年三月農商務省訓令第九號科目表中歲入經常部官業及官有財産收入ノ款森林收入ノ項ノ末位ニ建物貸下料ノ目ヲ設置ス

明治四十一年九月七日

農商務大臣 男爵大浦兼武

○農商務省訓令第二十五號

道府縣

肥料取締法ニ依ル肥料検査ノ爲必要ナル分析又ハ鑑定ニ付テハ左ノ趣心得ヘシ
明治四十一年九月十一日 農商務大臣 男爵大浦兼武

一 肥料検査ノ爲必要アルトキハ農事試験場本支場ニ肥料又ハ原料ノ分析又ハ鑑定ヲ請求スルコトヲ得

二 検査ノ爲收去シタル肥料又ハ原料ノ分析又ハ鑑定ヲ請求スルトキハ肥料取締法施行規則第七條第二項ノ手續ヲ爲シタル肥料又ハ原料ヲ密封ノ儘差出スヘシ

三 肥料又ハ原料ノ分析請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 肥料又ハ原料ノ名稱
- 二 分析ヲ要スル成分
- 三 生産者製造者輸入者若ハ移入者ノ氏名又ハ名稱及住所並其ノ肥料又ハ原料十貫目ノ價格
- 四 生産者製造者輸入者若ハ移入者ノ氏名若ハ名稱又ハ住所不明ナルモノニ在リテハ賣買營業者ノ氏名又ハ名稱及住所並其ノ肥料又ハ原料十貫目ノ價格

四 肥料又ハ原料ノ鑑定請求書ニハ前項第一號第三號又ハ第四號ニ掲ケタル事項ノ外鑑定ヲ要スル事項並鑑定上參考ト爲ルヘキ事項ヲ記載スヘシ

五 本令ニ依リ分析又ハ鑑定ヲ請求スル場合ニ於テハ手数料ヲ納付スルコトヲ要セス

六 分析又ハ鑑定ヲ要スル肥料又ハ原料ノ送付ニ關スル費用ハ道府縣ニ於テ肥料取締ニ關スル經費中ヨリ之ヲ支辨スヘシ

附則

七 本令ハ肥料取締法改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年八月訓令第二十二號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十四年八月十日農商務省訓令第二十二號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○農商務省訓令第二十六號

山林局 林區署

明治四十一年^三農商務省訓令第九號科目表中歲出臨時部尾國有林復舊費ノ款同名ノ項事業費ノ目ノ末位ニ圖書及印刷費ノ節ヲ設置ス

明治四十一年九月十九日

農商務大臣 男爵大浦兼武

○農商務省訓令第二十七號

林區署

明治三十四年農商務省訓令第四號林區署旅費規則中左ノ通改正ス

明治四十一年九月二十九日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第五條第一項中「小林區署署員」ノ下ニ「沖繩小林區署署長及同(小林區署諸員ヲ除ク)」ヲ加フ

第六條中へ左ノ一項ヲ加フ
沖繩小林區署長及同小林區署諸員部内ニ出張シタルトキハ普通旅費ヲ支給ス

乙號表ノ末ニ左ノ一號ヲ加フ

一 沖繩小林區署ノ保護區詰員タル判任官ノ日額ハ一圓ヲ支給ス

〔參照〕

農商務省訓令第四號林區署旅費規則(明治三十四年三月七日)抄錄

第五條第一項

小林區署署員部内ニ出張シ又ハ旅務ノ小林區署ニ滞在シタルトキハ日數ニ應シ乙號表ノ日額ヲ支給ス但シ宿泊セサル日ハ其ノ半額ヲ支給ス

○統監府訓令第十五號(官報九月一日)

統監府通信官署

統監府郵便局分課規程左ノ通定ム

統監代理

明治四十一年八月十二日

副統監 子爵曾禰荒助

統監府郵便局分課規程

第一條 左ノ各郵便局ニ郵便掛、電信掛、電話掛及庶務掛ヲ置ク

京城郵便局

釜山郵便局

仁川郵便局

第二條 左ノ各郵便局ニ通信掛及庶務掛ヲ置ク

元山郵便局

群山郵便局

木浦郵便局

平壤郵便局

新義州郵便局

清津郵便局

第三條 第一條及第二條以外ノ郵便局ニハ掛ヲ置カス

第四條 郵便掛、電信掛及電話掛ニ掛長ヲ置キ統監府通信管理局長之ヲ命免ス

第五條 各掛事務ノ分掌左ノ如シ

郵便掛

一 郵便物ノ集聚、引受、差立、到著及配達ニ關スル事項

二 郵便爲替、貯金、歲入金、歲出金及雜部金ノ受拂ニ關スル事項

三 資金及過超金ノ受入及拂出ニ關スル事項

四 未使用爲替證書及貯金通帳ノ保管ニ關スル事項

五 代金引換郵便ノ代金、現金取立郵便ノ現金取立及拂渡ニ關スル事項

六 郵便爲替貯金事務ノ官印及諸印類ノ保管ニ關スル事項

七 郵便物ノ保管及交付ニ關スル事項

八 郵便料ノ徵收ニ關スル事項

九 郵便物ノ事故調理ニ關スル事項

十 試驗通信ニ關スル事項

十一 郵便集配ノ監視ニ關スル事項

- 十二 約束郵便物ノ數量調査ニ關スル事項
 - 十三 郵便行囊ノ整理ニ關スル事項
 - 十四 郵便ニ屬スル現業備人ノ身分、進退、功過及服務ニ關スル事項
 - 十五 郵便ニ屬スル現業備人ノ組合貯金ニ關スル事項
 - 十六 船舶ノ使用及取締ニ關スル事項
 - 十七 助成航路汽船ノ發著日時證明ニ關スル事項
 - 十八 自局區内ニ屬スル郵便切手賣捌所及郵便函ノ廢置、變更ニ關スル事項
- 電信掛
- 一 電報ノ受付、送受、配達及電話依託通信ニ關スル事項
 - 二 線路障礙報告ニ關スル事項
 - 三 電報ノ事故調理ニ關スル事項
 - 四 電報ノ閱覽、正寫ニ關スル事項
 - 五 電報ノ保管及交付ニ關スル事項
 - 六 電報料ノ徵收ニ關スル事項
 - 七 電報ノ停止ニ關スル事項
 - 八 電報略號及配達先登記並局渡證票ニ關スル事項
 - 九 正午報ニ關スル事項
 - 十 船舶通過報ニ關スル事項
 - 十一 返信料前納證書ニ關スル事項
 - 十二 通信機械ノ調度、保護ニ關スル事項
 - 十三 電報配達ノ監視ニ關スル事項

- 十四 電報原書及書類ノ檢査、整理、保管及差立ニ關スル事項
 - 十五 電信ニ屬スル現業備人ノ身分、進退、功過又服務ニ關スル事項
 - 十六 電信ニ屬スル現業備人ノ組合貯金ニ關スル事項
- 電話掛
- 一 電話通信媒介ノ資務ニ關スル事項
 - 二 市外電話交換證ニ關スル事項
 - 三 電話交換手取締、交換手及交換手見習ノ身分、進退、功過及服務ニ關スル事項
 - 四 電話通話ノ停止、解停、加入者除名及電話料滞納者處分ニ關スル事項
 - 五 電話加入ノ申込、電話加入及同申込ノ繼承、讓渡及取消ニ關スル事項
 - 六 電話加入申込及加入者原簿ノ整理ニ關スル事項
 - 七 電話機及附屬品ノ増設、撤去、移轉及變更ニ關スル事項
- 庶務掛
- 一 職員ノ身分、進退、功過及服務ニ關スル事項
 - 二 郵便所長、郵便所所屬雇員及備人ノ身分、進退及功過ニ關スル事項
 - 三 郵便所ノ監督、監察及郵便所郵便區内監視ニ關スル事項
 - 四 郵便所長身元引受人ノ變更許否ニ關スル事項
 - 五 郵便所長ノ旅行並郵便所長及其ノ家族ノ營業ニ關スル事項
 - 六 郵便所ノ開廢ニ關スル事項
 - 七 郵便所ノ郵便區、集配區、電報直配達區域、電話加入區域及爲替振宛町村ノ畫定並集配度數ノ改定變更ニ關スル事項
 - 八 吏員ノ規約貯金及備人貯金組合ヲ吏員共ノ他ノ組合ト合併ニ關スル事項

- 九 現業備入ニ贈與スル金銀物品等ノ受領申請ニ關スル事項
- 十 指定區域内ニ於ケル郵便切手賣捌所及郵便函ノ廢置、變更ニ關スル事項
- 十一 規程及記録ニ關スル事項
- 十二 文書ノ受授、發送、淨書、編纂及保存ニ關スル事項
- 十三 統計及報告ニ關スル事項
- 十四 第三種郵便物ノ認可ニ關スル事項
- 十五 約束郵便ノ承認ニ關スル事項
- 十六 郵便私書函ノ貸與ニ關スル事項
- 十七 郵便切手類、收入印紙ノ賣捌、買戻、出納及保管ニ關スル事項但シ窓口賣捌事務ヲ除ク
- 十八 圖書ノ保管ニ關スル事項
- 十九 歳入調定、徵收及下戻ニ關スル事項
- 二十 定額豫算ノ經理ニ關スル事項
- 二十一 經費ノ支出ニ關スル事項
- 二十二 官有財産ノ保管及官有物品ノ出納保管ニ關スル事項
- 二十三 官舎ノ取締及其ノ戶籍ニ關スル事項
- 二十四 局内外取締ニ關スル事項
- 二十五 定備人ノ身分、進退、功過及服務ニ關スル事項
- 二十六 非常警備ニ關スル事項
- 二十七 證票及印鑑等交付及保管ニ關スル事項
- 二十八 局印、局長印ノ管守ニ關スル事項
- 二十九 他掛ニ關セサル事項

通信掛

郵便掛、電信掛及電話掛(電話事務ヲ取扱ハサル郵便局ハ之ヲ除ク)ヲ合セタルモノニ同シ

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年一達通第七號統監府郵便局分課規程及同第八號統監府郵便局分掌規程ハ之ヲ廢止ス

○統監府訓令第十六號(宣報九月一日)

統監府通信官署

明治四十年一統監府訓令第一號統監府郵便局長職務章程左ノ通改正ス

統監代理

副統監 子爵曾禰克助

統監府郵便局長職務章程

第一條 統監府郵便局長ハ主管ノ事務ニ關スル法律、命令ヲ執行シ及部下ノ職員ヲ監督シ其ノ進退、功過ヲ統監府通信管理局長ニ具狀ス

第二條 統監府郵便局長ハ別ニ定ムルモノノ外左ノ事項ヲ專決施行ス

- 一 局員ノ服務ヲ指定スルコト
- 二 月俸金二十圓及日給月額金二十圓以下ノ雇員ヲ進退スルコト
- 三 局員ニ除服出仕ヲ命スルコト
- 四 韓人吏員ノ歸省看護、墓參及轉地療養及受驗願ヲ許否スルコト
- 五 郵便切手賣捌所及郵便函ヲ廢置、變更スルコト
- 六 電話通話ノ停止及解停ニ關スルコト
- 七 電話加入ノ申込、電話加入及同申込ノ繼承、讓渡及取消ニ關スルコト

- 八 電話加入申込及加入者原簿ノ整理ニ關スルコト
- 九 電話機及附屬品ノ増設撤去、移轉及變更ニ關スルコト
- 十 前各號ニ比シ輕易ノ事項
- 第三條 別表ニ指定スル統監府郵便局長ハ其ノ指定區域内ニ屬スル郵便所ノ職員ヲ監督シ其ノ進退、功過ヲ統監府通信管理局長ニ具狀ス
- 第四條 別表ニ指定スル統監府郵便局長ハ第二條及別ニ定ムルモノノ外自局及其ノ指定區域内ニ屬スル左ノ事項ヲ專決施行ス
 - 一 自局雇員ノ歸省、看護、喪葬、轉地療養及受験願ヲ許否スルコト
 - 二 郵便及電信取扱所以下郵便區内ニ於ケル郵便切手賣捌所及郵便函ヲ廢置變更スルコト
 - 三 自局ニ於ケル電報料金後納取扱ノ認可ニ關スルコト
 - 四 郵便所ニ於ケル電話通話ノ停止、解停ニ關スルコト
 - 五 郵便及電信取扱所以下ニ經費ヲ交付スルコト
 - 六 郵便及電信取扱所以下ニ事業用物品ヲ交付スルコト
 - 七 郵便所長ノ選定並郵便所監督及監察ノ爲定額豫算内ニ於テ自局員ヲ指定區域内ニ出張セシムルコト
 - 八 郵便所長身元引受人ノ變更ヲ許否スルコト
 - 九 郵便所長ノ旅行申請ヲ許否スルコト
 - 十 郵便所長及其ノ家族ノ營業ヲ許否スルコト
 - 十一 郵便所所屬雇員及傭人ノ身分、進退ニ關スルコト但シ經費ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 - 十二 郵便所所屬雇員及傭人ノ懲戒處分ヲ當該所長ニ指示スルコト

- 十三 自局及郵便所所屬傭人ニ贈與スル金錢物品等ノ受領申請ヲ許否スルコト
 - 十四 自局及郵便所所屬傭人貯金組合ヲ吏員其ノ他ノ組合ニ合併認可ニ關スルコト
 - 十五 成規定例アル事項ニ付事務取扱方ヲ郵便所長ニ指示スルコト
 - 十六 郵便所ニ關スル管理事務ニシテ前各號ニ比シ輕易ノ事項
- 附則
本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

局名	指定區域
京城郵便局	京畿道(仁川府及富平、江華、喬桐ノ各郡ヲ除ク) 忠清南道ノ内(牙山、溫陽、新昌、禮山、木川、全義、天安、平澤、稷山、懷德、燕岐、公州ノ各郡) 忠清北道
釜山郵便局	慶尙南道 慶尙北道 全羅南道ノ内 巨文島
仁川郵便局	京畿道ノ内(仁川府及富平、江華、喬桐ノ各郡) 忠清南道ノ内 於青島 黃海道(延安、白川、金川、平山、瑞興、黃州、新溪、遂安、兎山、谷山、鳳山ノ各郡ヲ除ク)
元山郵便局	咸鏡南道 江原道ノ内(欽谷、通川、高城、杆城、襄陽、江陵、三陟、蔚珍、平海、淮陽ノ各郡)

群山郵便局	全羅北道 忠清南道 (牙山、溫陽、新昌、禮山、木川、全義、天安、平海、稷山、懷德、燕岐、公州ノ各部及於青島ヲ除ク)
水浦郵便局	全羅南道(巨文島ヲ除ク)
平壤郵便局	平安南道
新義州郵便局	平安北道
清津郵便局	咸鏡北道 間島

○統監府訓令第十七號(官報九月五日)

統監府特許局分課規程左ノ通定ハ

統監府特許局

統監代理

副統監 子爵曾爾荒助

明治四十一年八月二十七日

統監府特許局分課規程

- 第一條 統監府特許局ニ審判課、第一審査課、第二審査課、再審査課及庶務課ヲ設キ其ノ事務ヲ分掌セシム
- 第二條 審判課ニ於テハ發明、意匠及商標ニ關スル審判事務ヲ掌ル
- 第三條 第一審査課ニ於テハ發明及意匠ノ審査並分類ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第四條 第二審査課ニ於テハ商標ノ審査並分類ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第五條 再審査課ニ於テハ發明、意匠及商標ノ再審査並發明完成前後ノ審査ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第六條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 書類、雛形又ハ見本ノ接受、發送、保管ニ關スル事項

- 二 圖面ノ調製、書類ノ謄本及證明ニ關スル事項
- 三 原簿登錄ニ關スル事項
- 四 各官廳其ノ他トノ通信、報告ニ關スル事項
- 五 内外國ノ文書翻譯ニ關スル事項
- 六 報酬額決定ニ關スル事項
- 七 公報其ノ他印刷物ノ編纂、發行ニ關スル事項
- 八 圖面閱覽ニ關スル事項
- 九 著作權ニ關スル事項
- 十 特許代理業者ニ關スル事項
- 十一 他課ノ主掌ニ屬セザル事項

○大藏省訓令第四十六號

税關

關稅行政ノ施行其宜ヲ得ルト否トハ直接ニハ國庫收入ノ消長ニ關係シ間接ニハ外國貿易ノ隆替ニ影響ス殊ニ近時國運ノ急遽ナル發展ニ伴ヒ輸出入貨物ノ數量大ニ増加シ稅關ノ事務愈複雜ニ趨クニ連レテ稅關官吏ノ任務ハ益重大ヲ加フルニ至レリ凡關稅行政ノ執行ハ關稅法規ノ定ムル所ニ遵ヒ公正ニ關稅ヲ賦課シ嚴密ニ脫稅ヲ防遏シ併セテ取締上支障ナキ限ニ於テ貨物輸出入ノ利便ヲ計ルヲ以テ其ノ目的トス之ヲ以テ職ヲ稅關ニ奉スル者ハ處理措辦都テ此ノ目的ニ副フヲ旨トシ事務ヲ執ル周到緻密ナルト共ニ簡捷敏活ヲ期シ檢索ニ當テ緩漫ニ流レス苛察ニ涉ラス中庸其ノ宜ヲ得サルヘカラス殊ニ稅關官吏ハ職務ノ執行人民ノ財產ニ直接利害ノ關係アルヲ以テ須ラク品操ヲ高クシ廉恥ヲ重シ又人民ニ接スルニハ惻切ナルヘント雖モ狎昵ニ流レテ請託ノ隙ヲ作ルナキヲ要ス

稅關當局者ハ善ク以上ノ趣旨ヲ體シ之カ完全ナル實行ニカメンコトヲ望ム

明治四十一年十月七日

大藏大臣 侯爵桂太郎

○大藏省訓令第四十七號

稅務監督局 稅務署

稅務執行ノ方針竝ニ官吏服務ノ心得ニ付テハ從來數次ノ訓示アリ稅務當局者カ平素能ク其旨ヲ體シ之ヲ實行シテ愆ルナキハ本大臣ノ信シテ疑ハサル所ナリト雖モ茲ニ重ネテ本大臣ノ所思ヲ明カニシ以テ當局者ノ服膺セムコトヲ望ム所以ノモノハ實ニ稅務行政ノ良否ハ國民ノ休戚ニ關スル所鮮カラサルモノアレハナリ

惟フニ納稅ノ義務ヲ盡シテ國費ノ分擔ヲ完フスルハ國民ノ美德ニシテ徵收ノ目的ヲ達シ國實ノ充實ヲ誤ラサルハ稅政ノ極致ナリ不正ノ遁脫ハ素ヨリ之ヲ容スヘキニアラスト雖モ不當ノ徵收ハ最

モ之ヲ戒メサルヘカラス資賤ニ依リ寬嚴ノ差ヲ生シ都鄙ニ依リ輕重ノ別ヲ來スカ如キハ稅政ニ於テ特ニ避ケサルヘカラスト雖モ法規ノ域外ニ超逸シテ苛察ニ涉リ事實ノ根基ヲ缺如シテ豫斷ヲ爲スカ如キ斷シテ之レ有ルヘカラス事ニ稅務ニ從フ者須ラク誠意ノ觀察ニ本ツキ最常識ノ判斷ヲ爲ラサルヲ要ス

官規ノ嚴肅ナルヘキハ一般官吏ニ在テ當サニ然ルヘキノ事ニ屬スト雖モ人民ニ負擔ヲ課スヘキ職務ヲ執行スル官吏ニ於テ特ニ然ラサルヘカラス稅務官吏タル者須ラク廉恥ヲ重シシ操守ヲ堅クシ苟モ不正ノ誘惑ニ陥ル如キアルヘカラス指揮監督ノ任ニ在ル者細心留意嚴ニ規律ノ維持ニ力ムル所アルヲ要ス

明治四十一年十月七日

大藏大臣 侯爵桂太郎

○大藏省訓令第四十八號

明治三十六年九月大藏省訓令第三十七號ハ之ヲ廢止ス

明治四十一年十月十九日

大藏大臣 侯爵桂太郎

〔參照〕

明治三十六年九月大藏省訓令第三十七號ハ樞密事務局事務取扱手續ナリ

○大藏省訓令第四十九號

明治二十三年十二月大藏省訓令第五百五十號ハ陸軍臨時召集諸費金庫支出取扱順序同二十七年七月同訓令第三十九號ハ

明治四十一年十月十九日

大藏大臣 侯爵桂太郎

〔參照〕

海軍臨時召集諸費支出取扱方ナリ

○大藏省訓令第五十號

大藏省所管經費仕拂命令官

明治二十六年十一月大藏省訓令第四十號仕拂命令仕拂請求書集合仕拂命令及集合仕拂請求書發付等ニ關スル取扱手續中第一號書式ヲ左ノ通改正シ明治四十二年一月一日ヨリ施行ス

明治四十一年十月三十日

大藏大臣 侯爵桂太郎

(書式表面) 用紙寸法 縦由尺五寸二分 輪廓寸法 縦四寸四分 (「」内及印章ハ孰モ朱)

歲出金仕拂通知書

第 何 號	某 年度 歲出	大 藏 省 主 管 取 扱 廳
仕拂命令仕拂請求書	第 何 號	
金額氏名表	第 何 號	
仕拂命令仕拂請求書ヲ寫テタル金額名	何 地 金 庫	
仕拂指定金額名	何 地 金 庫	

金何圓何拾何錢也

本行ノ金額ニ對スル仕拂命令仕拂請求書何年何月何日發行濟ニ付仕拂指定金額ヨリ現金ヲ受領セラレム

何廳仕拂命令官 官 氏 名 國

明 治 何 年 何 月 何 日

何 之 誰 渡

領收證

前記之金額領收候也

明治何年何月何日

受取人

「住所」

「何之誰」印

「受取人」印

(注意) 受取人ハ裏面ノ注意事項ヲ熟覽スヘシ

備考

- 一 官廳又ハ市町村若クハ公共團體等ノ收入トナルヘキモノハ宛名ニ官廳名又ハ市町村若クハ公共團體名ヲ記入シテ發行スヘシ
- 二 本通知書ノ特別會計ニ屬スルモノハ輪廊及其他ノ線ヲ赤色トシ又一般會計ニ屬スルモノハ黒色トシ一見區別ニ便ナラシムヘシ
- 三 用紙ハ印刷局紙若クハ永久保存ニ耐ユル用紙ヲ用ユヘシ
- 四 本書ハ左方ニ曲尺八分ノ綴代ヲ設クヘシ

(書式裏面)

(注意事項)

- 一 受取人ハ表面領收證之部ニ年月日及住所ヲ記入シ記名捺印シ現金領收ノ證トシテ之ヲ指定ノ仕拂金庫ニ差出シ現金ノ拂渡ヲ受クヘシ
- 但シ官吏公吏ニ在リテハ官廳名又ハ市町村名若クハ公共團體名ヲ肩書シ官職名ヲ記シ記名捺印スヘシ
- 一 受取人ノ住居地カ仕拂金庫ノ所在地外ニシテ自己ノ住居地迄現金ノ送達ヲ望ムモノハ其旨仕拂金庫ニ請求スヘシ
- 一 受取人カ代人ヲ以テ現金仕拂ノ請求ヲ爲サントスルトキハ本人ニ於テ本

委任欄

表書金額ノ受取方ヲ
ニ委任致候也

「住所」
明治何年何月何日

「何之誰」印

委任欄

表書金額ノ受取方ヲ
ニ委任致候也

「住所」
明治何年何月何日

「何之誰」印

○陸軍省訓令第三十二號

明治四十一年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十一年十月二日

歳出經常部

陸軍大臣 子爵寺内正毅

陸軍一般

△印増設

軍	款	項	目	節
事	費			

○陸軍省訓令第三十三號

明治四十一年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十一年十月九日

歳出經常部

陸軍大臣

子爵寺内正毅

△印増設

陸軍一般

	修繕費	末位ニ	
		歩兵第四十五聯隊營舎及小隊附屬修繕	
		大嶺炭歩兵分遣隊建物修繕	

○陸軍省訓令第三十四號

明治四十一年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十一年十月十三日

歳出經常部

陸軍大臣

子爵寺内正毅

△印増設

陸軍一般

	軍事費	修繕費	末位ニ	
			旭川衛戍病院蒸気消燈器据付	

○陸軍省訓令第三十五號

明治四十一年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十一年十月十九日

歳出臨時部

陸軍大臣

子爵寺内正毅

△印増設

陸軍一般

	修繕費	末位ニ	
		歩兵第九聯隊附屬建物其他移轉	

○陸軍省訓令第三十六號

明治四十一年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十一年十月二十三日

千住製絨所作業歳入

陸軍大臣

子爵寺内正毅

△印増設

陸軍一般

	災害費	末位ニ	
		野砲兵第十聯隊及野砲兵第十聯隊其他火災復舊費	
		野砲兵第十聯隊馬糞庫其他火災復舊	

入	款	項	目	節
	千住製絨所作業收			

○陸軍省訓令第三十七號

陸軍一般

明治四十一年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十一年十月二十八日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

歲出經常部

△印増設

雜收入	末位ニ
△地所食下料	
△返納金	
△辨償金	

款	項	目	節
軍費	修繕費	末位ニ	
		△第十二回管各都府縣支那事務費	

款	項	目	節
災害費	末位ニ		
		△字都宮憲兵分隊事務室其他火災復舊費	

歲出臨時部

○司法省訓令第八號

監獄

明治三十八年司法省訓令第三號中特典者行狀審査簿ハ之ヲ廢止ス

明治四十一年十月九日

司法大臣 子爵岡部長職

〔參照〕

明治三十八年三月司法省訓令第三號ハ看守女監取締實務成績考査表、監房配置表、特典者行狀審査簿、囚人刑事被告人認治人別房留置人入監簿、拘留囚名簿様式ナリ

○農商務省訓令第二十八號

山林局 製鐵所 特許局

鑛山監督署 農事試驗場 工業試驗所

生絲檢査所 花菱檢査所 蠶業講習所

水産講習所 糖業改良事務局 日本大博覽會事務局

明治三十三年農商務省訓令第十六號諸收入收納取扱方中「取扱フヘシ」ノ下「但製鐵所ニ於テ發スル納入告知書ハ左記様式ニ依ル」ノ二十三字ヲ加フ

明治四十一年十月六日

農商務大臣 男爵大浦兼武

(注意)

此納入告知書ニ對シ納金スルニハ其地便宜ノ金庫ニ就キ振換納金請求書用紙ヲ受ケ之ニ納入金庫名(即チ門司本金庫所屬八幡支金庫)納入金額等ヲ記入シ之ニ現金ヲ添ヘ其地ノ金庫ニ差出シ振換證書ヲ受取り此納入告知書ト共ニ當所ヘ送附セラレタシ

納 入 告 知 書

用紙適宜 縦四寸五分ノモノ一枚 横四寸五分ノモノ一枚 横四寸五分ノモノ一枚 横四寸五分ノモノ一枚 横四寸五分ノモノ一枚

第(何)號(某)年度(何)郡市(何)町村(何)某股納

經常(臨時)「何々」(款)「何々」(項)「何々」(目)

(何)省主管取扱廳名 歳入徴收官(官氏名)

一金何程

但「何々」(收入ノ目的ヲ記載ス)

右明治(何)年(何)月(何)日限り收入官吏官氏名又ハ(何々)金庫(御納付相成度候也)

明治何年何月何日 納入告知書發行者 官氏名(印)



報 金 庫

第(何)號(某)年度(何)郡市(何)町村(何)某股納

經常(臨時)「何々」(款)「何々」(項)「何々」(目) (何)省主管取扱廳名

一金何程



告 知 書 (書 知 通)

右領收濟ニ付報告(通知)候也

明治(何)年(何)月(何)日 收入官吏 官氏名(印)

又ハ 何地金庫(印)



領 收 證 書

第(何)號(某)年度(何)郡市(何)町村(何)某股納

取扱廳名

一金何程



但「何々」

右領收候也

明治(何)年(何)月(何)日 收入官吏 官氏名(印)

又ハ 何地金庫(印)

〔參照〕

農商務省訓令第十六號(明治三十三年四月十四日)
諸收入收納取扱方ノ儀ハ本月六日大藏省訓令第二十七號ニ據リ取扱フヘシ

○農商務省訓令第二十九號

大林區署

明治三十三年農商務省訓令第三十號中第二號様式ノ二ヲ削除ス

農商務大臣 男爵大浦兼武

明治四十一年十月七日

〔參照〕

明治三十三年七月農商務省訓令第三十號ハ特別經營造林成績報告様式ナリ

○農商務省訓令第三十號

府縣

明治四十一年三月農商務省訓令第八號科目表中歳出臨時部産業獎勵費ノ款植樹獎勵費ノ項中廳費ノ目圖書購買費ノ節ヲ圖書及印刷費ノ節ニ改ム

農商務大臣 男爵大浦兼武

明治四十一年十月二十一日

○農商務省訓令第三十一號

府縣

明治四十一年三月農商務省訓令第八號科目表中歳出臨時部産業獎勵費ノ款植樹獎勵費ノ項雜給及雜費ノ目ノ末位ニ給與ノ節ヲ設置ス、

明治四十一年十月二十九日

農商務大臣 男爵大浦兼武

○遞信省訓令第一號

廳府縣

明治二十四年十月五日^{十五日}內務省訓令第十七號軌道條例取扱方心得命令書雛形中「內務大臣」ノ下ニ「及遞信大臣」ヲ加ヘ雛形末尾ノ「內務大臣」ノ次ニ「遞信大臣爵氏名印」ヲ加フ

遞信大臣 男爵後藤新平
內務大臣 法學博士男爵平田東助

明治四十一年十月二十二日

○遞信省訓令第二號

北海道廳 府縣

遞信省所管經費取扱規程左ノ通相定ム

遞信大臣 男爵後藤新平

明治四十一年十月三十日

遞信省所管經費取扱規程

第一條 遞信大臣ハ必要ニ應シ左ニ掲クル經費ノ仕拂豫算額ヲ定メ北海道廳長官、府縣知事又ハ島司ニ其ノ仕拂ヲ委任ス

- 一 電柱敷地手當
- 二 航海補助費
- 三 水難救護費
- 四 浮流水雷發見者給與費

第二條 仕拂命令及集合仕拂命令ノ發付等ニ關シテハ明治二十六年十一月十一日大藏省訓令第四十號ニ準

十月二日同第五號ハ電信柱敷地手當金ニ係ル本國大臣ノ職務ハ道廳長官府縣知事執行、同二十六年六月二日同訓令第二號ハ電信柱敷地手當金仕拂取扱順序、同年十二月二日同第六號ハ仕拂命令集合仕拂命令發付等ニ關スル取扱手續ノ件、同二十七年八月十日同訓令第一號ハ逓信費支出計算簿ヲ會計検査院ヘ送付方委任、同三十四年五月二日同第三號ハ水難救護ニ關スル收入支出取扱順序、同三十六年三月三日同第二號ハ航海補助費ノ取扱及該出計算書送付方ヲ北海道廳長官府縣知事ニ委任ノ件ナリ

○逓信省訓令第三號

北海道廳 府縣

水難救護法ニ依リ國庫ノ取得トナルヘキ收入金アルトキハ明治三十三年四月大藏省訓令第二十七號諸收入收納取扱規程ニ依リ其ノ應ニ於テ之ヲ收納スヘシ
水難救護ニ關スル費用中條約ニ依リ外國政府ヨリ償還ヲ受クヘキモノアルトキハ其ノ金額及事由ヲ詳具シ逓信大臣ニ稟申スヘシ

明治四十一年十月三十日

逓信大臣 男爵後藤新平

○統監府訓令第十八號 (官報十月六日)

統監府法務院 理事廳

明治三十九年訓令第二十九號刑ノ執行猶豫事件取扱規程中左ノ通改正ス

統監代理

副統監 子爵曾禰荒助

明治四十一年十月一日

第二條第二項中「判決ヲ言渡」ニ改ム

第三條第一項中「裁判ヲ言渡」ニ同項第一號及第四號ヲ左ノ如ク改ム

一 刑ノ言渡ヲ爲シタル判決ニ對シ上訴ニ因リ原判決ヲ取消又ハ破毀シタル場合ニ於テ新ニ執行猶豫ノ言渡アルニ非サレハ先ニ言渡サレタル執行猶豫ノ言渡ハ其ノ效力ヲ失フコト

四 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消セルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其

ノ效力ヲ失フコト

第四條中「裁判ヲ言渡」ニ「裁判確定前」ヲ「判決確定前」ニ改ム

第五條及第七條中「裁判ヲ判決」ニ改ム

第一號書式中「禁錮附加罰金」ヲ「禁錮年 月 又ハ」ニ「裁判ヲ言渡」ニ「該裁判確定」ヲ「該判決確定」ニ

「猶豫セラレタル刑ノ執行ヲ免除セラレ」ヲ「刑ノ言渡ハ其ノ效力ヲ失フヘシ」ニ改ム

第二號書式ノ一ヲ「第二號書式」ニ同書式中「禁錮附加罰金」ヲ「禁錮年 月 又ハ」ニ改ム

第二號書式ノ二削除

第四號書式中「禁錮」ヲ削ル

第五號書式中「重疊禁錮附加罰金」ヲ「禁錮年 月 又ハ」ニ「裁判ヲ言渡」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

統監府訓令第二十九號刑ノ執行猶豫事件取扱規程(明治三十九年十一月七日官報)抄録

第二條第二項

若シ一定ノ住所ナキ者ニ對シ刑ノ執行猶豫ノ判決アリタルトキハ檢察ノ職務ヲ行フ職員ハ犯人ヲシテ適ニ住所ヲ定メ居

出テシムヘシ

第三條 刑ノ執行猶豫ノ裁判アリタル場合ニ於テ檢察ノ職務ヲ行フ職員其ノ裁判ヲ相當ト思料スルトキハ犯人ニ對シ左ノ

事項ヲ告知スヘシ

一 刑ノ言渡ヲ爲シタル判決ニ對シ上訴ヲ爲シタルトキハ更ニ執行猶豫ノ裁判アルニ非サレハ先ニ言渡サレタル執行猶豫ノ裁判ハ當然其ノ效力ヲ失フヘキコト

三 猶豫期間内ハ其ノ言行ヲ慎ミ犯罪行為ヲ爲スヘカラス若シ他ノ犯罪ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ執行猶豫ノ裁判ヲ取消サレ前後ノ刑ヲ併セテ執行セラレヘキコト

四 猶豫期間内禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケサルニ於テハ全然刑ノ執行ヲ免除セラレヘキコト
 第四條 刑ノ執行猶豫ノ裁判アリタル場合ニ於テ犯人勾留中ニ係ルトキハ別紙第二號書式ノ指押書ヲ作り司獄官ニ送付シ
 テ出監手續ヲ爲スヘシ
 執行猶豫ノ裁判ヲ相當ナリト思料スルトキハ裁判確定前ト雖出監手續ヲ爲スコトヲ得
 第五條 第一項及第三項
 刑ノ執行猶豫ノ裁判確定シタルトキハ犯人ノ住所地ヲ管轄スル理事廳警察官署ニ通知スヘシ
 犯人死亡シ若ハ所在不明トナリタルトキハ其ノ執行猶豫ノ裁判ヲ爲シタル官廳ニ通知スヘシ
 第七條 第一項
 刑ノ執行猶豫ノ裁判確定シタルトキハ別紙第四號書式ノ刑執行猶豫事件簿ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ五條第一項第二項ノ
 通知ヲ受ケタルトキ亦同シ

○統監府訓令第十九號

法務院 理事廳

帶勳者及致功者勳章年金褫奪及停止取扱手續ノ規定ニ依リ勳位功級收奪ノ訓令ヲ受ケタルトキハ
 其ノ旨犯人ノ本籍地戸籍吏ヘ通知スヘシ
 右訓令ス

統監代理

副統監 子爵曾禰荒助

明治四十一年十月二十四日

○内務省訓令第十號

内務省所管仕拂命令官

明治三十三年^四内務省訓令第六號仕拂命令集合仕拂命令發付等ニ關スル取扱手續中第一號書式ヲ
 左ノ通改正シ明治四十二年一月一日ヨリ施行ス

明治四十一年十一月四日

内務大臣 法學博士男爵平田東助

(書式表面)

用紙寸法 縦四寸五分 横六寸二分 輪廓寸法 縦四寸四分 横五寸四分

(内及印章ハ孰モ朱)

歳出金仕拂通知書

第 [何] 號	[某] 年度 歳出	内務省 主管 取扱 廳
仕拂命令 [仕拂請求書]	第 [何] 號	
金額氏名表	第 [何] 號	
仕拂命令 [仕拂請求書] 研究ナル金額名	[何] 地 金 庫	
仕拂指定金庫名	[何] 地 金 庫	

金何圓何拾何錢也

本行ノ金額ニ對スル仕拂命令 [仕拂請求書] [何] 年 [何] 月 [何] 日發行濟ニ付仕拂指定金庫ヨリ現金ヲ受領セラルヘシ

[何] 廳仕拂命令官 [官] 氏 名 [團]

明治 [何] 年 [何] 月 [何] 日

[何] 之 誰 渡

50

領收證

前記之金額領收候也
 明治何年何月何日
 受取人
 「住所」
 「何之誰」

- (注意) 受取人ハ裏面ノ注意事項ヲ熟覽スヘシ
- 備考
- 一 官廳又ハ市町村若クハ公共團體等ノ收入トナルヘキモノハ宛名ニ官廳名又ハ市町村若クハ公共團體名ヲ記入シテ發行スヘシ
 - 二 本通知書ノ特別會計ニ屬スルモノハ輪廓及其他ノ線ヲ赤色トシ又一般會計ニ屬スルモノハ黑色トシ一見區別ニ便ナラシムヘシ
 - 三 用紙ハ印刷局紙若クハ永久保存ニ耐ユル用紙ヲ用ユヘシ
 - 四 本書ハ左方ニ曲尺八分ノ綴代ヲ設クヘシ

(書式裏面)

- (注意事項)
- 一 受取人ハ裏面領收證之部ニ年月日及住所ヲ記入シ記名捺印シ現金領收ノ證トシテ之ヲ指定ノ仕拂金庫ニ差出シ現金ノ拂渡ヲ受クヘシ
 - 但シ官吏公吏ニ在ツテハ官廳名又ハ市町村名若クハ公共團體名ヲ肩書シ官職名ヲ記シ記名捺印スヘシ
 - 一 受取人ノ居住地カ仕拂金庫ノ所在地外ニシテ自己ノ居住地迄現金ノ送達ヲ望ムモノハ其旨仕拂金庫ニ請求スヘシ
 - 一 受取人カ代人ヲ以テ現金仕拂ノ請求ヲ爲サントスルトキハ本人ニ於テ本書委任欄内ニ適宜ノ事項ヲ記載シ記名捺印スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出

○陸軍省訓令第三十八號

明治四十一年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス
 明治四十一年十一月二十五日
 歳入臨時部

陸軍大臣 子爵寺内正毅
 陸軍一般

委任欄	表書金額ノ受取方ヲ	ニ委任致候也
「住所」	明治何年何月何日	何之誰

スヘシ此場合ニ於テハ代人ハ本書ニ代人タルノ肩書ヲ付シ記名捺印スヘシ

一 受取人ノ印章ハ請求書ニ押捺シタルモノト同一ノモノニ限ル

一 受領金額五圓以上ノモノハ規定ノ收入印紙ヲ貼附印スヘシ但シ營業ニ關セサルモノハ此限ニアラス

款	項	目	節
官有物拂下代	家畜拂下代ノ上位ニ		
	△船舶拂下代	船舶拂下代	

○文部省訓令第十一號

大臣官房會計課 直轄諸學校 帝國圖書館
 明治四十一年度學校及圖書館歲入歲出科目表ニ左ノ通追加ス
 文部大臣 小松原英太郎

明治四十一年十一月十日

一歳入經常部學校及圖書館ノ款諸收入ノ項授業料ノ目中末位ニ研究生授業料ノ節ヲ加フ
 ○文部省訓令第十二號 大臣官房會計課 直轄諸學校 帝國圖書館

明治四十一年度學校及圖書館歲入歲出科目表ニ左ノ通追加ス

明治四十一年十一月十二日

一歳入經常部學校及圖書館ノ款諸收入ノ項中末位ニ生徒養成費收入ノ目海軍造兵生徒養成費收入ノ節ヲ加フ
 文部大臣 小松原英太郎

○農商務省訓令第三十二號

府縣

明治四十一年^三農商務省訓令第八號科目表中歲出臨時部產業獎勵費ノ款植樹獎勵資ノ項ノ末位ニ死亡賜金ノ目ヲ設置ス
 農商務大臣 男爵大浦兼武

明治四十一年十一月六日

○統監府訓令第二十號(官報十一月五日)

統監府鐵道管理局職員ニシテ臺灣又ハ樺太ヲ旅行スル場合ニ於テハ明治四十年^八月^八日^八逕信省公達第四百九十號逕信省內國旅費規程ヲ準用ス
 統監代理 子爵曾禰荒助

明治四十一年十月三十一日

○內務省訓令第十一號

樺太廳

明治二十四年^九月^九日^九內務省訓令第二十一號第六條中五箇年ノ誓約期限ハ樺太ニ限り三箇年ト爲スコトヲ得
 內務大臣 法學博士男爵平田東助

明治四十一年十二月十日

〔參照〕

明治二十四年^九月^九日^九內務省訓令第二十一號ハ逕信採用規則ナリ

○大藏省訓令第五十一號

警視廳 北海道廳 府 縣 大臣官房會計課
 印刷局 造幣局 專賣局 稅務署 釀造試驗所 大藏省臨時建築部
 稅務監督局 稅務署 釀造試驗所 大藏省臨時建築部

本年^三大藏省訓令第十二號明治四十一年度大藏省所管歲入科目表歲入臨時部第二款雜收入中ニ第五項利子收入第一目利子收入ノ項目ヲ追加ス
 大藏大臣 侯爵桂太郎

明治四十一年十二月八日

○陸軍省訓令第三十九號

陸軍一般

明治四十一年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十一年十二月十八日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

歲出經常部

△印増設

陸軍本省	款	項	目	節

○陸軍省訓令第四十一號

陸軍一般

明治四十一年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十一年十二月二十八日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

歲出臨時部

△印増設

△近衛歩兵第三聯隊石垣其他水害復舊費	△近衛歩兵第三聯隊	
△第一師管内各部隊石垣其他水害復舊費	△第一師管内各部隊	

款	項	目	節
災害費	末位ニ		
	臺灣各部隊水害復舊費		
	臺灣各部隊水害復舊費		
	工兵第七大隊下士集會所其他火災復舊費		
	工兵第七大隊下士集會所其他火災復舊費		
	工兵第三大隊既會其他火災復舊費		
	工兵第三大隊既會其他火災復舊費		

○司法省訓令第九號

監獄

明治三十五年^{十二}司法省訓令第四號中忠者日表ヲ別紙ノ通改正シ明治四十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス但別紙ハ別ニ之ヲ頒ツ

明治四十一年十二月二十六日

司法大臣 子爵岡部長職

○文部省訓令第十三號

大臣官房會計課 直轄諸學校 帝國圖書館

明治四十一年度學校及圖書館歲入歲出科目表ニ左ノ通追加ス

明治四十一年十二月三日

文部大臣 小松原英太郎

一歲出經常部學校及圖書館ノ款雜給及雜費ノ項雜費ノ目中末位ニ諸手數料ノ節ヲ加フ

○農商務省訓令第三十三號

北海道廳 府縣

明治三十七年^九農商務省訓令第十一號農商務統計樣式中左ノ通改正シ明治四十二年調查報告ヨリ施行ス

明治四十一年十二月七日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第三食用及特用農產物表第四果實表ヲ左ニ改メ次ニ第五苗木表ヲ加フ

第三 食用及特用農產物 (報告期翌年二月限)				明治何年			
	作付段別	收穫高	備考		作付段別	收穫高	備考
大豆				大豆			
小豆				小豆			
豌豆				豌豆			
甜豆				甜豆			
大豆				大豆			
小豆				小豆			
豌豆				豌豆			
甜豆				甜豆			

第一〇茶表ヲ左ニ改メ次ニ第一二緑肥用作物表ヲ加フ

製 造 戸 數		數	量	一 貫 二 付 價 格
玉	露			
煎	茶			
煎	茶			
番	茶			
烏	龍			
紅	茶			
計				
烏	龍			
紅	茶			
煎	茶			
煎	茶			
計				

第一茶 (報告期其年十一月限)

明治何年

一一人ニテ數箇ノ場所ヲ有スルモノアラハ各別ニ之ヲ數フヘシ

一層絲トハ生皮等及熨斗絲ヲ併稱シタルモノナリ

一坐皮等トハ線絲ニ際シ繭ヲ裝テ繭ヲ束ムル爲メニ手繰リタル繭ノ上皮ノ層絲ヲ云ヒ座織製絲ノ際手繰リタル層絲ヲ座織生皮等、器機製絲ノ際手繰リタル層絲ヲ器機生皮等、座織及器機ノ兩生皮等ヲ熨斗絲ニ引延ス際ニ生シタル層絲ヲ平生皮等ト云フ

一熨斗絲トハ線絲ニ際シ手繰リタル層絲ヲ悉切ニ裁ニ捲キ取りタルモノ又ハ生皮等ヲ更ニ引延シタルモノヲ云ヒ線絲ノ緒ヲ小籠ニ纏付ケタルモノヲ熨斗絲、線絲ノ緒ヲ一口毎ニ長ク引延シタルモノヲ長熨斗絲、熨斗絲ヲ細ク引延シ精選シテ小籠ニ纏付ケタルモノヲ細熨斗絲ト云フ

一層物トハ揚リ繭、繭肌及線絲ノ總稱ナリ

(注意)

一製造戸數ハ其年五月末日現在ヲ記ス可シ但シ指定ノ月日ニ季節ヲ過キ若クハ達セサルトキハ盛期ノ數ヲ記スヘシ

一玉露トハ覆フ掛ケタル畑ヨリ收メタル茶葉ヲ熱シテ之ヲ揉捻乾燥シテ製シタルモノ

一煎茶トハ普通ノ畑ヨリ收メタル茶葉ヲ熱シテ之ヲ揉捻乾燥シテ製シタルモノ

一紅茶トハ普通ノ茶葉ヲ揉捻シ醗酵セシメ乾燥シテ製シタルモノ

一烏龍茶トハ普通ノ茶葉ヲ攪拌シテ放香ノ手續ヲ經タル後釜蒸揉捻乾燥シテ製シタルモノ

一番茶トハ本表各目ニ屬セサル劣等ノ製茶ヲ謂フ

一本表各目外ノ製茶(陳茶ノ類)アラハ其數及一貫ニ付テノ價格ヲ掲記スヘシ

第一二 緑肥用作物ノ一 (春期ニ播種スルモノ) 報告期其年九月限 明治何年

計	其	豆	及	豌豆	其	計	作 付 段 別			
							田	畑	田	畑
							收	獲	高	一段歩收獲高
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田	田	平均
							畑	畑	畑	平均
							計	計	計	平均
							田	田		

第一一家畜表ヲ第一三トシ以下第一七綿絲紡績表ニ至ルマテ順次番號ヲ繰下ク
 第一七綿絲(絹絲)(麻絲)紡績ノ一二ニ於テ(絹絲)(麻絲)ヲ削除ス
 (注意)第三項ヲ削除ス
 第一七ノ次ニ左ノ二表ヲ加フ

第二〇 絹絲紡績ノ一 (報告期翌年四月限) 明治何年

紡績場名	拂込額(平均一日)		原動力機關數	日營業數	石炭消費高	職工數	職工賃額
	資本金	絹絲針軸絲針					
計							
紡績場名	絹絲	原料需要高	製造高	原料需要高	製造高	主要製絲番數	同一貫二付價格
計							

(注意)
 一 紡績場ハ其年十二月末日現在、職工ハ平常使用スル一日平均數ヲ記スヘシ
 一 賃額ハ老幼ヲ除キ一日一人ノ平均ヲ記スヘシ

第二一 麻絲紡績ノ一 (報告期翌年四月限) 明治何年

紡績場名	拂込額(平均一日)		原動力機關數	日營業數	石炭消費高	職工數	職工賃額
	資本金	麻絲					
計							
紡績場名	大	原料	製造高	主要製絲番數	同一貫二付價格	職工數	職工賃額
計							

(注意)
 一 紡績場ハ其年十二月末日現在、職工ハ平常使用スル一日平均數ヲ記スヘシ
 一 賃額ハ老幼ヲ除キ一日一人ノ平均ヲ記スヘシ
 一 本様式記載外ノ原料ヲ用ル場合ニ於テハ其名稱數量ヲ記スヘシ

一 本社所在地ト工場所在地ト異ナルトキハ本社ノ所在地其他参考上必要ノ事項ヲ記スヘシ
 一 紡績以外ノ業務事業アラハ其ノ名稱ヲ掲ゲ資本金其他ノ事項ニシテ水業ト兼業トヲ分別スル能ハサルトキハ其
 旨ヲ記スヘシ

第一八織物表ヲ第二二織物表ニ改メ綿織物中「綿フランネル」ノ次ニ「タヲル」ノ一欄ヲ加ヘ此數量ノ
 單位ヲ打トシ價額ノ單位ヲ圓トス

第一九莫大小表ヲ第二三トシ以下第三三機械製麥粉ニ至ルマテ順次番號ヲ繰下ク
 第二四工業用藥品第二六油類第三二和紙第三三西洋紙ヲ左ニ改ム

第二八 工業用藥品 (報告期翌年四月限)

明治何年

品名	數量	價額	製造戶數	職工	
				男	女
硫酸					
鹽酸					
硝酸					
硫酸(砒)					
炭酸(砒)					
苛性鹼					
沃度加里					
沃度加里					
鹽化加里					
明礬(原土)					
硫酸安母尼亞(鹼)					
磷酸石灰					
面粉					

(注意)

一 製造戶數ハ其年十二月末日現在職工ハ平常使用スル一日平均數ヲ記スヘシ

一 二種以上ヲ製造スルモノハ製造戶數及職工ハ主ナル一方ニ記入シ數量及價額ハ之ヲ區別シテ記入スヘシ

第三〇 油類 (報告期翌年四月限)

明治何年

品名	數量	價額	製造戶數	職工	
				男	女
菜種油					
胡麻油					
菜種油					
桐油					
大豆油					
落花生油					
其他					
菜種油類					

(注意)

一 製造戶數ハ其年十二月末日現在職工ハ平常使用スル一日平均數ヲ記スヘシ

一 二種以上ヲ製造スルモノハ製造戶數及職工ハ主ナル一方ニ記入シ數量及價額ハ之ヲ區別シテ記入スヘシ

一 本表ノ其他ノ欄ニ掲グルハ植物性油ニ限ルモノトス

面					
場					
票					
考	備	其他	何々	何々	何々

(注意)

- 一本票ハ其年十二月末日ニ現在スル工場ヲ記入スルモノトス
- 一本票ハ工場所有主ノ會社タルト個人タルトヲ問ハス職工及徒弟ヲ通算シ十人以上ヲ有スル總テノ工場ニ通スルモノトス
- 中央官廳所管以外ノ官公工場モ本票ニ準シ報告スヘシ
- 一本票ハ工場所在地ノ地方廳ヨリ報告スルモノトス他府縣所在工場ノ分場ト雖モ其管内ニ在ルモノ亦同シ
- 一本票ハ一工場毎ニ式ノ通り記入シ一票毎ニ番號ヲ附シ之ヲ一括シテ其封筒ニ總計何枚ト記スヘシ
- 一分工場ハ本工場ト區別スル爲メニ分工場ト記スヘシ
- 一同府縣内ニ於テ同一地域者クハ同管内ニ二三ノ分工場アル場合ニ各獨立工場ト認メ得ヘキトキハ各別ニ報告スヘシ反之所在地者クハ建物ヲ異ニスト雖モ附屬ト看做スヘキモノハ本工場若クハ主タルモノニ合併シテ報告スヘシ
- 自家ニ發電機及電動機ヲ備フルモノハ是等ノ發電キロワット又ハ馬力數及其原動力機タル蒸氣機又ハ水力機ノ發電及馬力數ヲ相當欄ニ記入スヘシ他ヨリ電力ノ供給ヲ受クルモノハ電動機ノ發電及キロワット又ハ馬力數ノミヲ記入スヘシ

第五一 漁船 (報告期翌年三月限)

明治何年

計	船形洋西		船形本日				新	造	價	廢用船數	現在船數
	汽船	帆船	五間以上	五三間	五二間	三間未滿					

(注意)

- 一現在船數ノ欄ニハ其年十二月末日現在ノ船數ヲ記スヘシ
- 一新造ノ欄ニハ其年内竣工ノモノヲ記スヘシ
- 一廢用漁船トハ漁用ニ堪ヘスシテ使用ヲ廢シタルモノヲ云フ但シ雖破船ヲ加フヘカラス

第五八 保安林箇所面積種類別ノ一 (報告期其年五月限) 明治何年三月末日現在

種類	御料				國有				部分				公有				社寺有				私有				計
	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段			
土砂并止林																									
飛砂防止林																									
水害防備林																									
防風林																									
潮害防備林																									
類雪防止林																									
墜石防止林																									
水源涵養林																									
魚附林																									
航行目標林																									
公衆衛生林																									
風致林																									
計																									

保安林箇所面積種類別ノ二

種類	御料				國有				部分				公有				社寺有				私有				計
	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段			
土砂并止林																									
飛砂防止林																									
水害防備林																									
防風林																									
潮害防備林																									
類雪防止林																									
墜石防止林																									
水源涵養林																									
魚附林																									
航行目標林																									
公衆衛生林																									
風致林																									
計																									

第五九 保安林編入解除箇所面積 (報告期其年五月限)

種類	御料				國有				部分				公有				社寺有				私有				計
	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段			
類雪防止林																									
墜石防止林																									
水源涵養林																									
計																									

(注意) 一編入、解除ハ當該年度中決定ニ係ルモノヲ記入シ從來保安林調査済ハ森林法施行手續第二十八條ニ依リ調査ヲ了シ施行法要領通過済ニシテ當初ヨリ當該年度末日ニ至ル迄ノ總數ヲ記シ尙調査未済ノ箇所面積ハ傍ニ朱書ス

第六〇 公有社寺私有林開墾 (報告期翌年三月限) 明治何年

種類	耕地				宅地				焼畑切替畑				其他形質變更				計					
	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段	箇所面積	段								
公有																						
社寺有																						
私有																						
計																						

第六五 織物指定特別調査

(報告期翌年三月限)

明治何年

何々	機業戸數		織		工		數量	價額
	力織機	手織機	男	女	計	計		
工場								
家内工業								
織元								
貸織業								
計								

(注意)

一第二號織物表ニ同シ

左記各種ノ織物ニ就キ指定ノ地方廳ハ右様式ニ據リ各種目毎ニ別表ト爲シ報告スヘシ

輸出	單位	府	縣
羽二重	斤	群馬	福井 石川 富山
機織廣幅白綿布類(天竺金巾等)	碼	東京	大阪 三重 岡山 和歌山
綿 フラシ	段	京都	和歌山 徳島 愛媛
綿 毛	斤	大阪	愛知
タ	打	大阪	兵庫
綿	段	群馬	栃木 奈良 滋賀 富山 島根 山口 徳島
勻配	碼	群馬	栃木 石川 富山
輸出	碼	京都	群馬 栃木 山形 富山
機織綿	碼	京都	群馬
機織綿	碼	大阪	滋賀

第六六 染物指定特別調査

(報告期翌年三月限)

明治何年

何々	染物戸數		工		數量	價額
	男	女	計	計		
工場						
家内工業						
計						

(注意)

一工場トハ染工十人以上ヲ有スル染物場ヲ云フ(貸染ト否トヲ問ハス)
 一家内工業トハ主トシテ家族相集リ(十人未満ニテ)染物業ニ従事スルモノヲ云フ但シ十人未満ナレハ他人ノ相集
 マルモノト雖モ家内工業ト見做ス(貸染ト否トヲ問ハス)

左記各種ノ染物ニ就キ指定ノ地方廳ハ右様式ニ據リ各種目毎ニ別表ト爲シ報告スヘシ

縮	緬	友	禪	單位	府	縣
縮	緬	友	禪	段	京都	大阪
綿	友	禪	段	段	京都	大阪 新潟
綿	友	禪	段	段	東京	京都
綿	友	禪	段	段	東京	京都

中	形		段		東 京 都	大 阪	新 潟	靜 岡
	更	絞	更	絞				
更	絞	更	絞	東 京	東 京	大 阪	新 潟	愛 知
鹿	鹿	鹿	鹿	愛 知	京 都	京 都	大 阪	新 潟
擦	擦	擦	擦	東 京	京 都	大 阪	新 潟	靜 岡
第六七 磚茶指定特別調査 (報告期翌年三月限)								
明治何年								
製造場名	數		量		價 額			
計								

右ハ兵庫長崎福岡熊本ノ四縣ニ限リ調査報告スヘキモノトス

(注意)

一 磚茶トハ粉茶ヲ蒸シ之ヲ壓搾シテ乾燥シテ製シタルモノナリ

第六三精製糖指定特別調査ヲ第七八八精製糖指定特別調査ト改ム

○農商務省訓令第二十四號

府縣

明治四十一年三月農商務省訓令第八號科目表中歲出臨時部產業獎勵費ノ款植樹獎勵費ノ項ノ末位ニ

賞與ノ目ヲ設置ス

明治四十一年十二月十四日

農商務大臣 男爵大浦兼武

○農商務省訓令第三十五號

山林局 林區署

明治四十一年三月農商務省訓令第九號科目表中歲出臨時部尾國有林復舊費ノ款同名ノ項ノ末位ニ賞與ノ目ヲ設置ス

明治四十一年十二月十四日

農商務大臣 男爵大浦兼武

○農商務省訓令第三十六號

林區署

大林區署會計事務章程中左ノ通改正ス

明治四十一年十二月十六日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第五十八條 削除

第四百二十二條 大林區署長ハ會計規則第九十一條ニ依リ検査員ヲシテ出納官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査

セシムヘシ但シ臨時検査ハ毎年度一回以上之ヲ執行スヘシ

○農商務省訓令第三十七號

農商務省所管仕拂命令官(大林區署)

明治二十六年農商務省訓令第二十九號仕拂命令集合仕拂命令發付等ニ關スル取扱手續中「取扱フヘシ」ノ下ニ「但製鐵所ニ於テ發スル仕拂通知書ハ様式中(何ノ誰)渡トアルヲ(何ノ誰)殿又ハ(官廳)市町村若クハ公共團體」御中ト記入スルコトヲ得」ノ五十六字ヲ加フ

明治四十一年十二月二十四日

農商務大臣 男爵大浦兼武

○農商務省訓令第三十八號

明治四十一年三月農商務省訓令第九號科目表中歲出臨時部尾國有林復舊費ノ款同名ノ項ノ末位ニ退官賜金ノ目ヲ設置ス

明治四十一年十二月二十五日

農商務大臣 男爵大浦兼武

○農商務省訓令第三十九號

警視廳 北海道廳 府縣

地方廳ニ於テ取扱フヘキ當省所管經費取扱手續中左ノ通改正ス

明治四十一年十二月二十九日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第四條第三項ヲ左ノ通改メ第四項ヲ削除ス

警視廳監 北海道廳長官及府縣知事ハ月額又ハ日額旅費ヲ定メ、旅費定額ヲ減少シ若クハ其ノ一部ヲ支給セサルコトヲ得

〔參照〕

農商務省訓令第三十二號農商務省所管經費取扱手續(明治三十九年八月十四日)抄錄 第四條第三項及第四項

警視廳監、北海道廳長官及府縣知事ハ旅費定額ヲ減少シ若クハ其ノ一部ヲ支給セサルコトヲ得其ノ之ヲ減少シ若クハ一部ヲ支給セサルトキハ其ノ旨報告スヘシ 月額若ハ日額旅費ヲ支給シ又ハ特ニ支給方法ヲ設ケムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ク可シ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

○統監府訓令第二十一號(官報十二月五日)

統監府鐵道管理局

統監府鐵道管理局旅費規程左ノ通定ム

明治四十一年十一月二十八日

統監 公爵伊藤博文

統監府鐵道管理局旅費規程

第一條 統監府鐵道管理局ノ外國旅費支給ハ本規程ニ依ル但シ本規程ニ定ナキモノハ外國旅費規程ニ依ル

第二條 韓國人又ハ清國人ニ支給スル日當及客舍料ハ定額ノ半額トス

第三條 所管ノ汽車ニテ旅行スルトキハ汽車賃ヲ支給セス但シ韓國外ノ旅行ト連續スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 汽車二十哩陸路四里水路十海里未滿ノ日歸旅行ニハ日當ヲ支給セス 但シ汽車二十哩以上六十哩未滿ノ旅行ニハ日當半額ヲ支給ス

第五條 囑託員手當月額百五十圓以上ノ者ニハ委任官、百五十圓未滿三十圓以上ノ者ニハ判任官、三十圓未滿ノ者ニハ雇員相當ノ旅費ヲ支給ス

第六條 備人ノ旅費額ハ左ノ通トシ官費ヲ以テ運賃ヲ支給スルコトヲ得ヘキ私屬ノ荷物ハ十八圓目以内トス

客舍料 一圓五十錢 日當 五十錢

食卓料 四十錢

汽船賃汽車賃 下等定額

船車馬賃 實費

第七條 建築改良及保線等ニ從事スル係員ニハ月額旅費トシテ高等官四十圓、判任官雇員三十圓以内ニテ統監府鐵道管理局長官ノ定ムル職務ノ區別及從事區域ニ依リ之ヲ支給ス

第八條 汽車乘務又ハ驛務等ニ從事スル係員ニハ日當ヲ支給セス局有宿泊所ニ宿泊シタルトキハ

一 泊ニ付判任官ニハ一圓二十錢、雇員ニハ九十錢、備人ニハ六十錢以内ノ客舎料ヲ支給シ、宿泊所ノ設ナキ地又ハ正當ノ事由ニ因リ宿泊所ニ宿泊シ能ハサリシ場合ニ於テハ其ノ二倍ヲ支給ス

前項ノ規定ヲ適用スヘキ係員ノ職務ノ區別ハ統監府鐵道管理局長官之ヲ定ム

第八條 増務給ヲ受クヘキ備人常務ノ爲四十哩以内ノ地域ヲ旅行スルトキハ車馬賃及日當ヲ支給セス但シ宿泊シタルトキハ客舎料ヲ支給ス

第六條ニ依リ月額旅費ヲ受クル者其ノ區域外ニ涉リ四十哩以内ノ地域ニ旅行セシトキ亦前項ニ同シ

第九條 第六條ノ月額旅費ハ新任、轉免、死亡又ハ普通ノ旅行ヲ爲シタルトキ若ハ一箇月内ニ於テ七日以上常務ニ服セサルトキハ日割計算ヲ以テ之ヲ支給ス

第十條 一日ノ内ニ第六條又ハ第七條ノ旅行ト普通旅行ト交互相跨リタルトキハ金額ノ多キモノヲ支給ス但シ第六條ノ從事區域内ニ宿泊シタルトキハ客舎料ヲ支給セス

第十一條 午後六時ヨリ翌日午前六時マテノ間ニ於テ七時間以上汽車ニテ旅行シタルトキハ其ノ夜ハ宿泊シタルモノト看做ス

第十二條 新ニ採用スル爲特ニ召喚シタルトキハ其ノ資格相當ノ旅費ヲ支給ス

○統監府訓令第二十二號(官報十二月五日)

統監府鐵道管理局

統監府鐵道管理局囑託員及備人ノ内國旅費ハ別表定ムル所ニ從ヒ之ヲ支給ス其ノ支給ノ方法ハ内國旅費規則ニ依ル

明治四十一年十一月二十八日

統監 公爵伊藤博文

(別表)

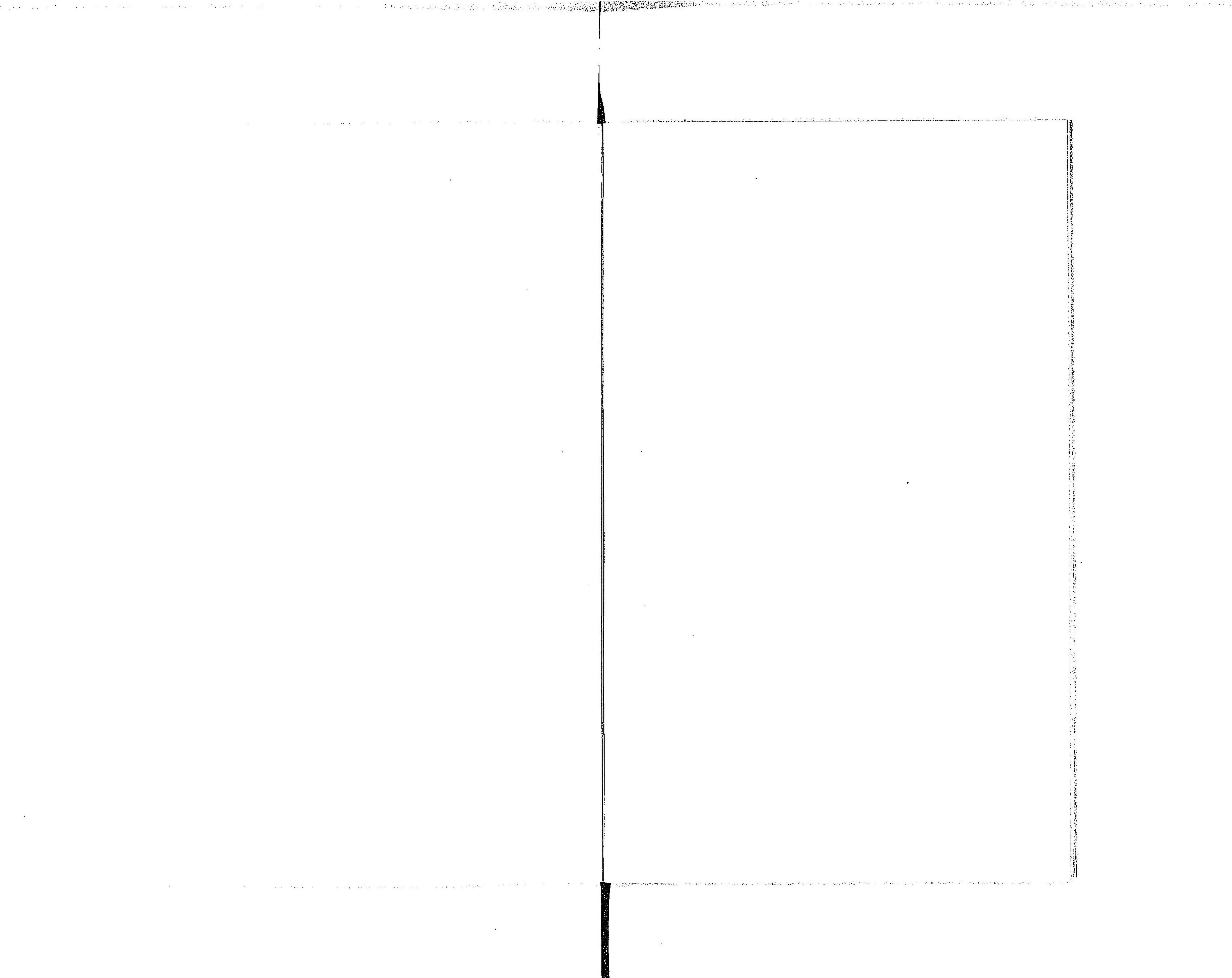
旅費額

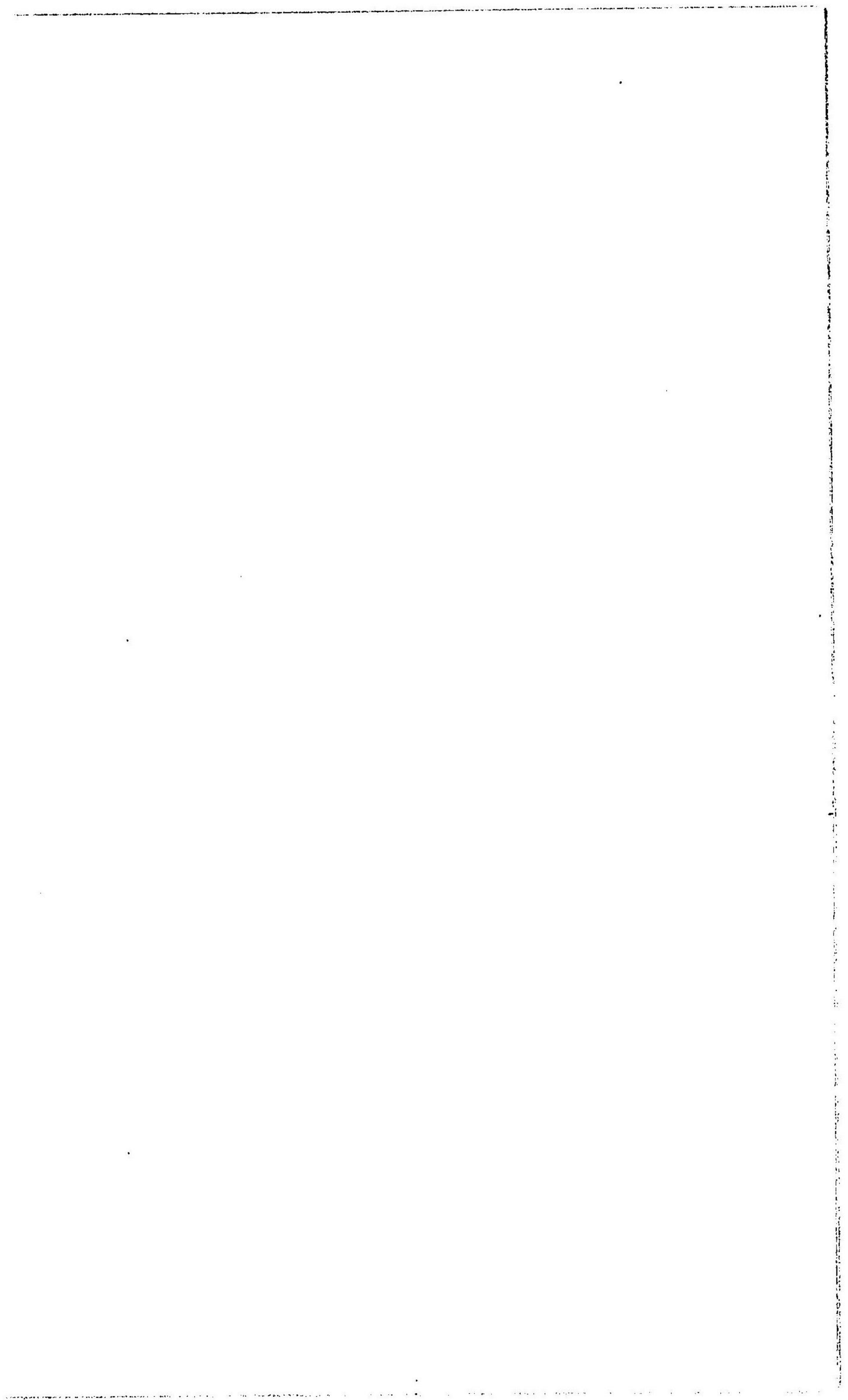
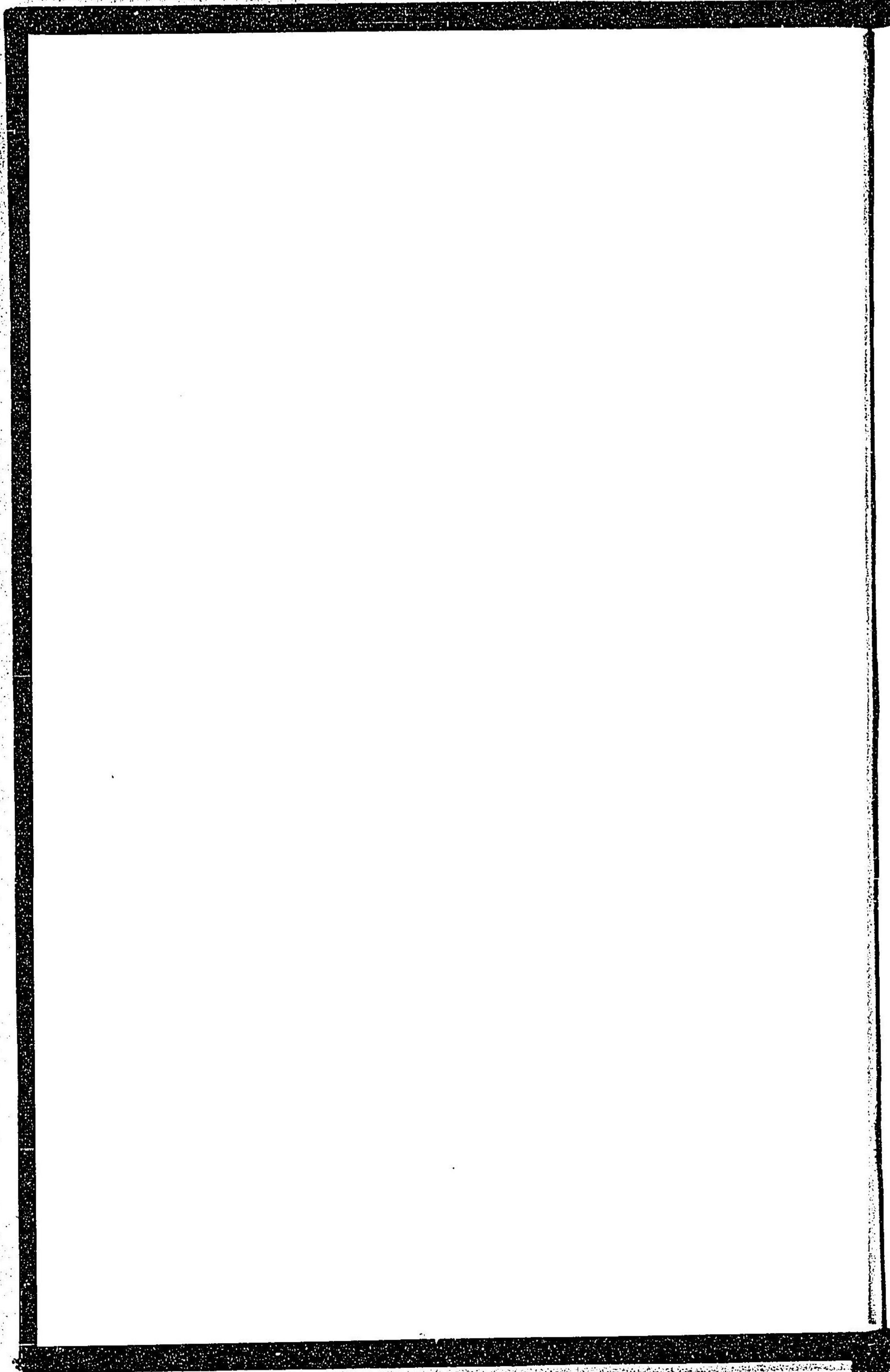
備人	區別				
	同 雇員 十月以上 十月以下	同 雇員 四月以上 四月以下	同 雇員 三月以上 三月以下	同 雇員 二月以上 二月以下	同 雇員 一月以上 一月以下
汽車賃	五	四	四	四	五
船賃	五	四	四	四	五
車馬賃	二十	十五	十五	十五	二十
宿泊料	一圓五十錢	一圓	一圓	一圓	一圓五十錢
日當	一圓	五十錢	五十錢	五十錢	一圓
食卓料	一圓二十錢	九十錢	九十錢	九十錢	一圓二十錢
備人	二	三	四	五	六
二	三	四	五	六	七
十	十二	十五	二十	三十	四十
六十	八十	九十	九十	九十	九十
二十	三十	五十	五十	五十	五十
三十	五十	九十	九十	九十	九十

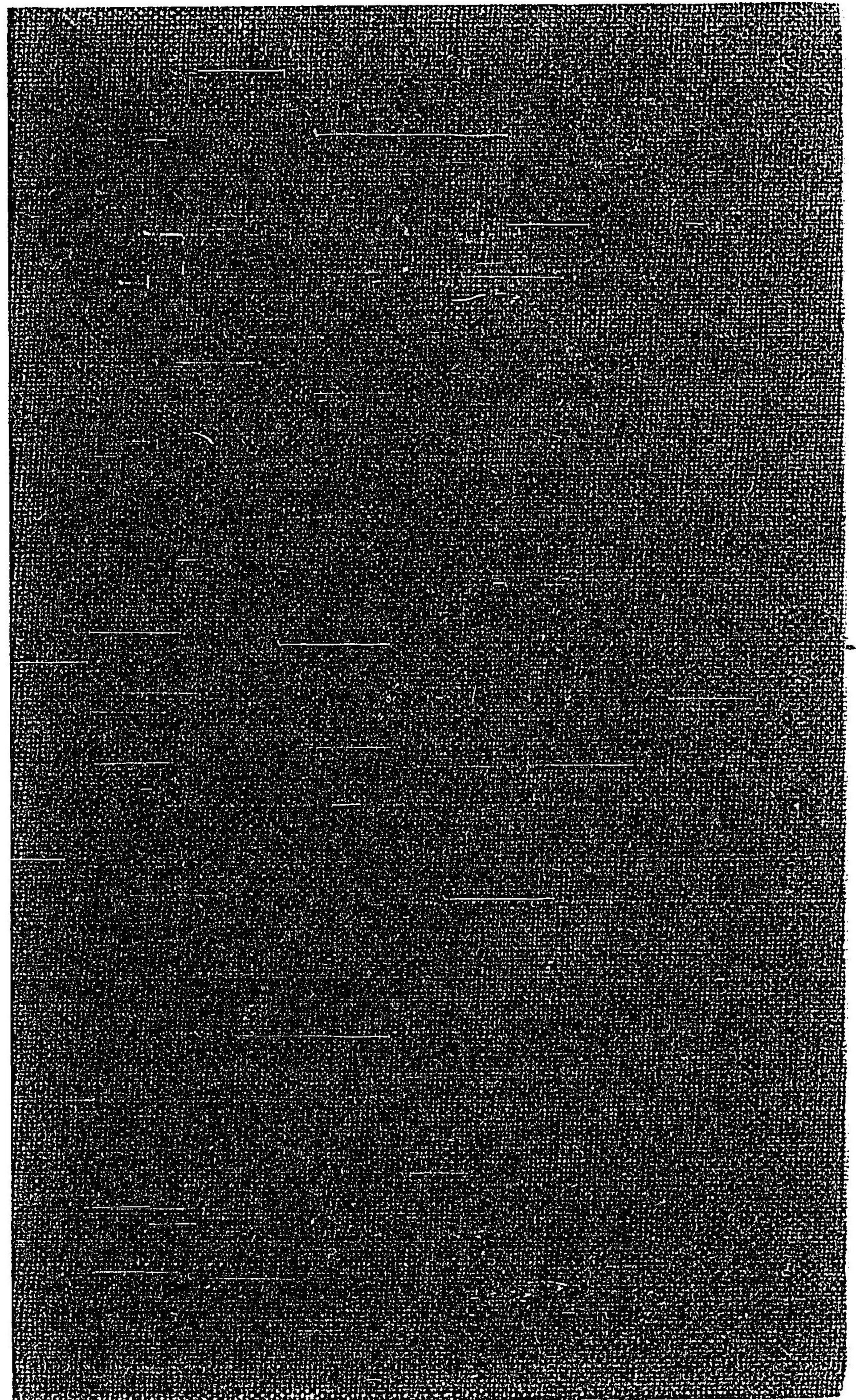
72-73

明治四十一年十二月 訓令

四一四







031130-113-9

CZ-4-1

法令全書 慶応3年10月-明治45年7月

内閣官報局

M20-45

BBC-1072

